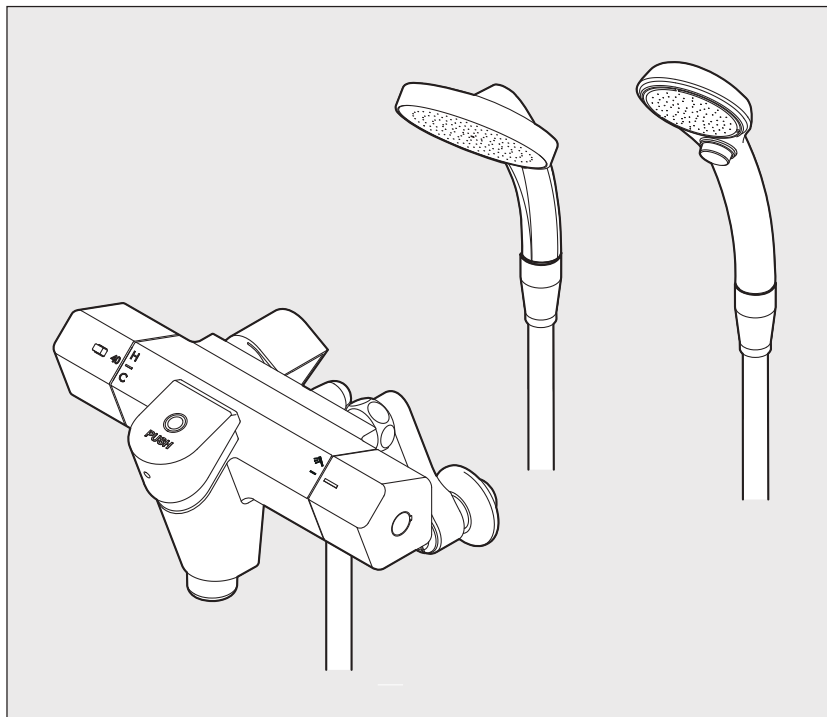


サーモシャワー混合栓(自閉式)

..... SK1816-13
SK1816T2-13

施工・取扱説明書

施工、ご使用前にこの説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工、ご使用ください。



本製品について

- 各部の名称..... 1
- 寸法図..... 2

施工について

- 施工に関する安全上のご注意..... 3
- 適切な使用条件..... 4
- 施工前のご注意..... 4
- 梱包明細..... 5
- 施工手順..... 6~13

ご使用について

- ご使用に関する安全上のご注意..... 14~17
- 吐水・止水・シャワー吐水..... 18
- 温度調節..... 19
- 温調ハンドルの設定..... 20
- 流量(水勢)・吐出量(吐水時間)の調節..... 21~22
- ストップシャワーヘッドの使用法..... 22
- 凍結予防..... 22

日頃のお手入れ

- 汚れの拭き取り..... 23
- シャワーヘッドの掃除..... 23
- ストレーナ・吐水口の掃除..... 24
- 自閉カートリッジの掃除..... 25~26

定期的な点検

- 可動部分の点検(月1回以上)..... 27
- 配管周りの水漏れ・器具のガタツキ(年2回以上)..... 27

定期的な部品交換

- 逆止弁の交換時期..... 27

こんなときは

- 故障? その前に..... 28
- 本製品の構造..... 29

保証とアフターサービス

- 保証とアフターサービス..... 30
- 保証書..... 裏紙

お客様へ

お読みになった後は、お使いになる方がいつでも読める所に必ず保管してください。
 なお、保証書にお買上げ(お取付け)年月日、販売店(工事店)名の記入のない場合はお買上げ(お取付け)の販売店(工事店)に申し出ていただくか、レシート又は領収書を貼付してください。

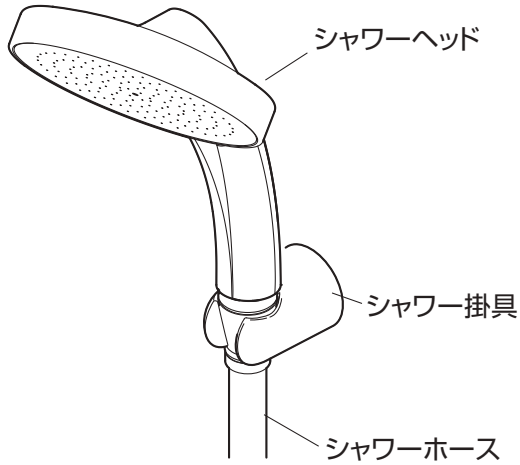
工事店様へ

施工後、保証書に貴店名ならびにお取付け年月日をご記入のうえ、本書と共にお客様へお渡しください。

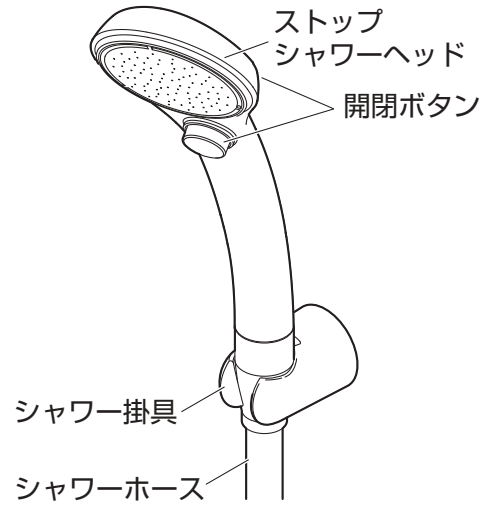
本製品について 各部の名称

- ハンドルを押すだけで一定量の水が出て、自動的に止まる水栓です。衛生的で節水に役立ちます。公共用、業務用などにご使用ください。
- 本製品は、サーモスタットの働きで混合水の温度を一定に保つ混合栓です。

■ SK1816-13の場合



■ SK1816T2-13の場合



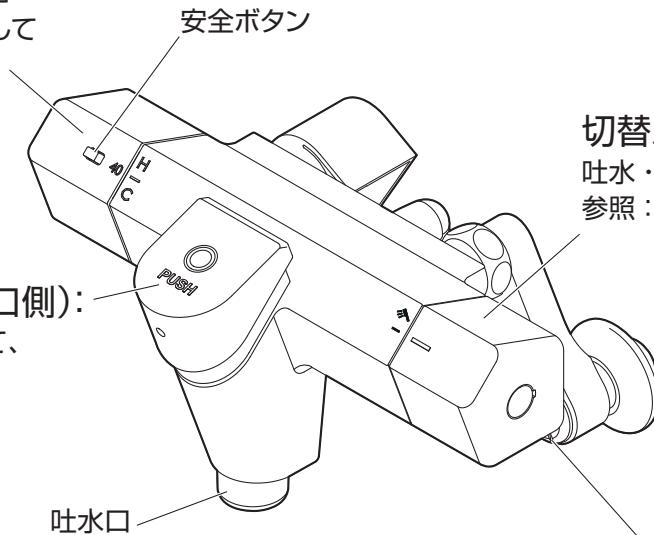
温調ハンドル：

温度調節ができます。高温にしたい時は安全ボタンを押してまわします。参照：P20

(本製品の最高吐水温度は約50℃です。ただし、使用水圧、給湯温度条件はP4を参照ください。)

PUSHボタン(吐水口側)：

押すと一定量の湯水が出て、自動的に止まります。参照：P18



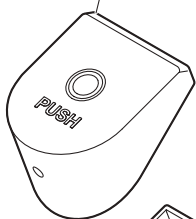
切替ハンドル(シャワー側)：

吐水・止水ができます。参照：P18

流量調節栓：

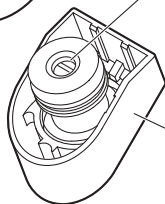
ドライバーでまわす事により流量(水勢)を調節したり、配管からの水を止める事ができます。参照：P21

PUSHボタン



吐出量調節ネジ：

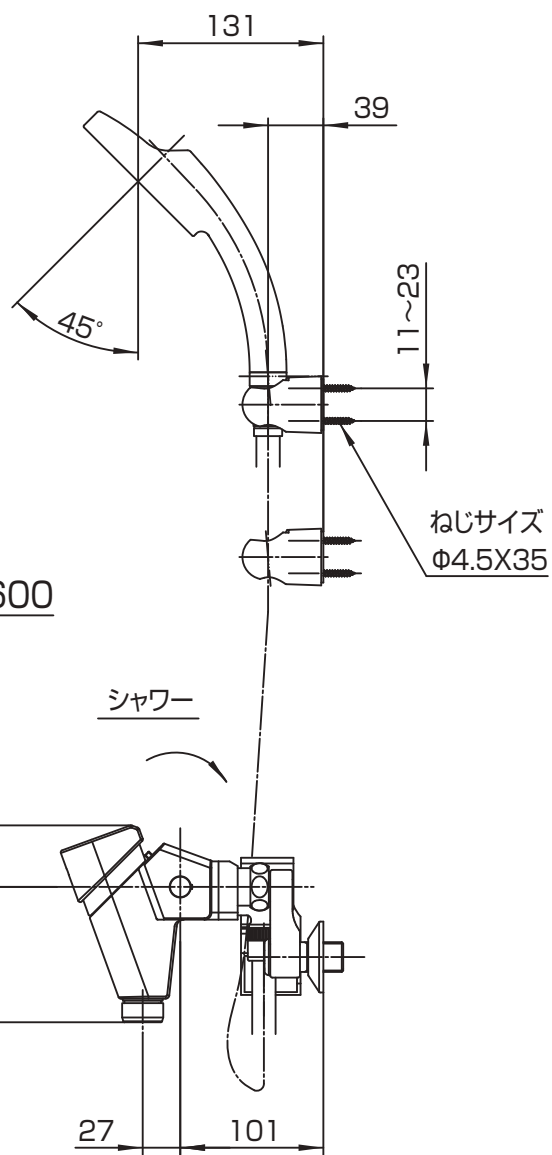
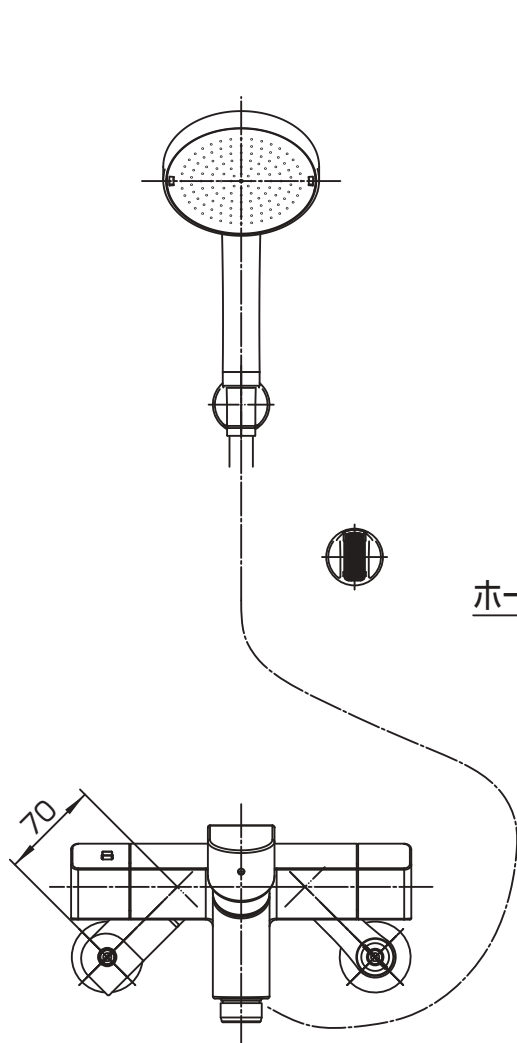
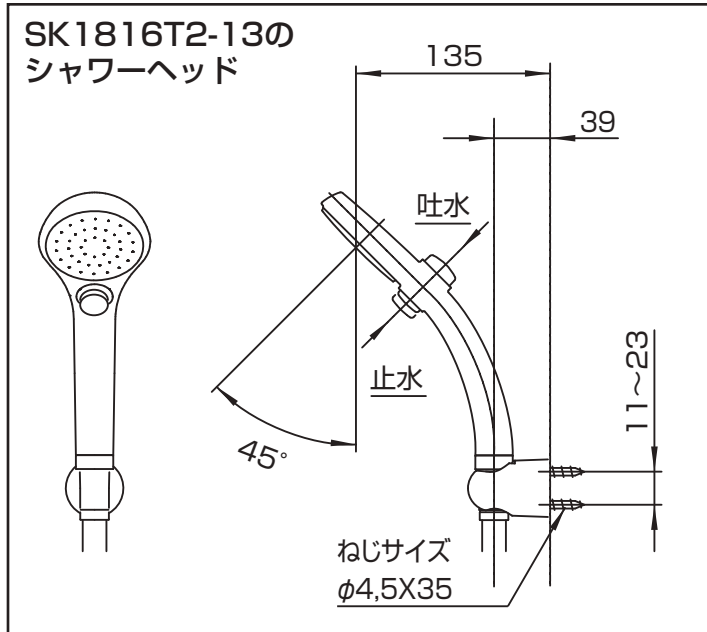
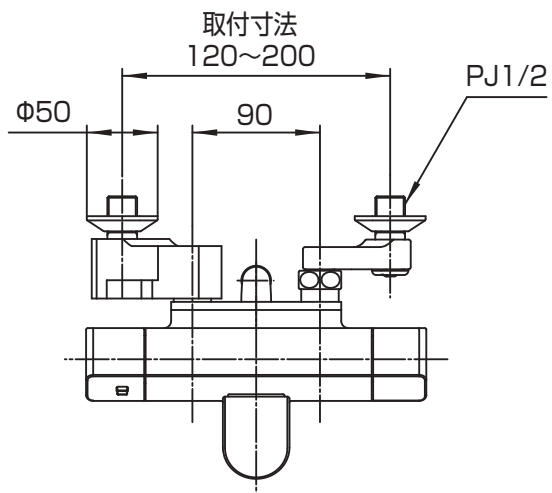
ドライバーでまわす事により1回の吐出量(吐水時間)を調節する事ができます。参照：P21~22



PUSHカバー

本製品について 寸法図

●仕様により、寸法が異なる場合があります。



施工について 施工に関する安全上のご注意

- ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果(傷害・物損)に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 施工完了後、試験運転を行い異常がない事を確認すると共に、工事店様は説明書に沿ってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- 施工は、水道法、その他の関係する法規などに従って行ってください。

用語および記号の説明

注意……………「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害が発生する危険な状態が生じる事が想定されます。」



……………「注意しなさい!」(上記の「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項を守ってください。)



……………「してはいけません!」(一般的な禁止記号です。)



……………「分解してはいけません!」



……………「指示通りにしなさい!」(一般的な行動指示記号です。)

⚠ 注意



修理技術者以外の方は、水栓本体内部を分解しないでください。
故障や水漏れの原因になります。



ストレーナの掃除をする際は、いきなりストレーナを緩めずに、流量調節栓を閉めてから行ってください。
湯水が噴き出して、やけどや家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
参照：P24



製品に強い力や衝撃を与えないでください。
故障や水漏れの原因になります。



湯水を逆に配管しないでください。
正常に作動しないため、やけどをする事があります。
なお、逆配管の場合は逆配管アダプター(別売)を使用する事で、逆配管でも表示通りに湯水を使用する事ができます。
参照：P9



給湯温度は60℃より高温で使用しないでください。
60℃より高温でご使用になると、器具の寿命が短くなり、水栓が破損し、水漏れのため家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。



温度表示通りの湯が出るよう、必ず温度調節を行ってください。
使用条件によっては温度表示通りの湯が出ず、やけどをすることがあります。



同梱の部品以外は使用しないでください。
故障や水漏れの原因になります。



凍結が予想される地域には、取付けないでください。
凍結破損で水漏れし、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

施工について 適切な使用条件

〔水圧について〕

給水・給湯圧力	最低必要水圧(流動時)	最高使用水圧(静止時)
SK1816-13	0.1MPa	0.75MPa
SK1816T2-13	0.05MPa	0.75MPa

- 給水・給湯圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁などで0.2～0.3MPa程度に減圧してください。
- 給水圧力が0.3MPa以上は流量調節栓の調整が必要です。
- 給水圧力は給湯圧力より必ず高くするか、同圧になるようにしてください。
なお、給湯圧力が0.1MPa未満の場合は給湯圧力+0.15MPa
0.1MPa以上の場合は給湯圧力+0.2MPa以内に行ってください。
- 給湯圧力は必ず0.05MPa以上にしてください。

〔給湯機について〕

使用最高温度	60℃以下
--------	-------

- 給湯機からの給湯管は抵抗を少なくするために最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。
- 給湯温度は、使用する温度より10℃以上高く設定してください。
設定温度が低いとサーモ機能が正常に作動しないおそれがあります。
- 誤操作などによるやけど防止のため、50～60℃給湯をおすすめします。
- 給湯に蒸気を使用しないでください。
- シャワーを使う際には、条件に適したガス瞬間式給湯機の号数(能力)が必要です。
四季を通じて快適なシャワーを得るために、給湯能力12号以上をおすすめします。
- ハンドルは全開にしてください。

〔水質・用途について〕

使用可能水質	水道水及び飲用可能な井戸水(温泉水を除く)
用途	公共・一般住宅用

⚠ 注意

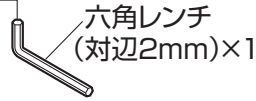
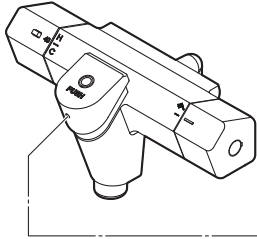
温泉水は使用しないでください。

施工について 施工前のご注意

- 給水は、上水道に接続してください。
- 開梱、施工の際は製品に傷をつけないようご注意ください。
- 配管内のシールテープくずやゴミをきれいに取除き、必ず通水して配管内のゴミを完全に洗い流してください。

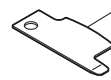
施工について 梱包明細

●本書(施工・取扱説明書「保証書付」)×1



六角レンチ
(対辺2mm)×1

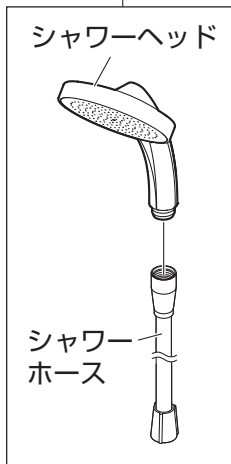
PUSHボタンの止め
ねじ用工具です。
なくさないように保
管してください。



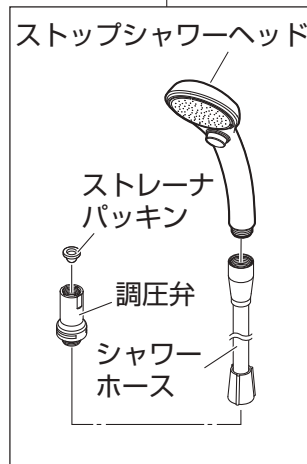
開閉工具×1

ストレーナ・自閉カート
リッジの減圧板をはず
す工具です。
なくさないように保管
してください。

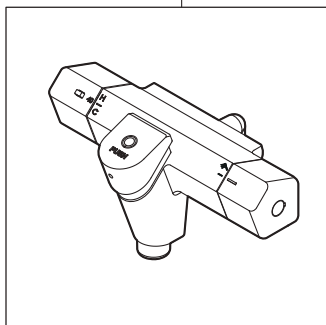
■ SK1816-13の場合
シャワーセット×1



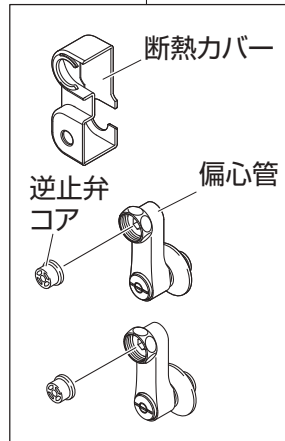
■ SK1816T2-13の場合
ストップシャワーセット×1



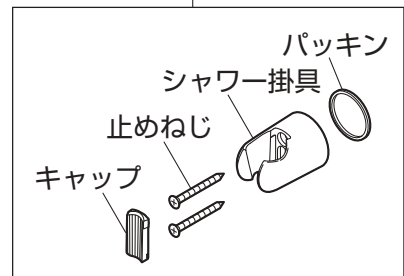
本体×1



偏心管×2



シャワー掛具 ×2



●通水検査をしていますので水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

主な工具類

■ シールテープ：

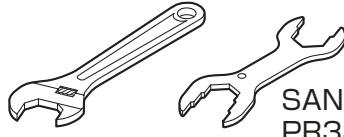
水栓の偏心管を配管に取付ける際に必要です。



SANEI品番：
PP75-1S
(シールテープ)

■ スパナ・モンキーレンチなど：

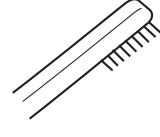
水栓のナットがまわせる工具。



SANEI品番：
PR3351
(水栓スパナ)

■ 使い古しのハブラシなど：

配管掃除ができるもの。



■ 手袋：

ケガ防止のために着用してください。



■ タオルなど：

ケガ防止や水栓保護のために使用します。



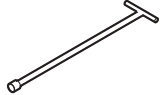
■ ぞうきんなど：

配管中の残り水を拭くのに使用します。



元栓がキー式の場合に必要な工具
(参照：P6)

■ 止水栓キー

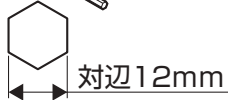


SANEI品番：
PR30A (止水栓キー)

配管中のザルボがはずれた場合
に必要な工具 (参照：P7~8)

■ 六角レンチ

SANEI品番：
PR35
(六角スパナ)



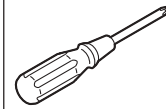
■ プライヤー



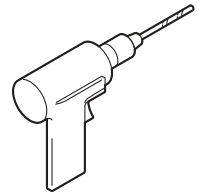
SANEI品番：
PR346-1S
(水栓プライヤー)

シャワー掛具を取付ける場合に
必要な工具 (参照：P13)

■ プラスドライバー



■ 電動ドリル



A 古い水栓の取りはずし

※新設の場合は **B** (P9) に進んでください。

1 元栓を閉めて、水を止めます。

元栓ボックス (メーターボックス) のふたを開け、元栓を右にまわして閉めます。

※元栓を閉める前に給湯機や洗濯機などの使用は止めてください。

※閉栓後は近くの水栓などで給水が止まっていることを確認してください。

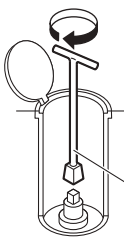
※一部の地域では左まわしの場合があります。

※元栓がどこにあるかわからない場合は、水道局にお問い合わせください。

■ 戸建て住宅などの元栓ボックス：

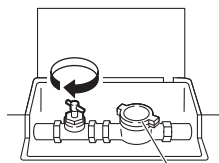
主に玄関やガレージ付近の地面にあります。
古い戸建て住宅の場合は道路に円形のキー式
ボックスがあったりします。

●キー式



止水栓キー
SANEI品番：
PR30A (止水栓キー)

●ハンドル式



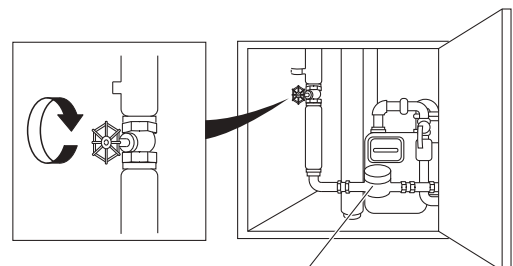
水道メーター
(量水器)

■ マンションなどの

中高層住宅の元栓ボックス：

主に玄関を出た階段の踊り場に鉄の扉があり、
電気やガスのメーターと共に水道メーターと
元栓があります。

お隣と共通のボックス内で元栓の場所がわから
ない場合は、水道料金の検針票などでご自
分の水道メーター番号を確認してください。



水道メーター (量水器)

2 古い水栓本体をはずします。

偏心管のナットを交互に少しずつゆるめて取りはずします。

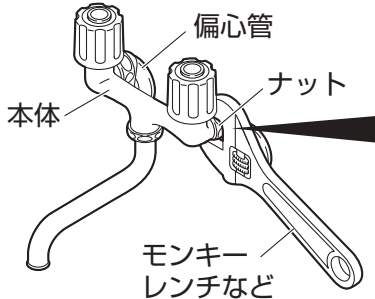
偏心管側にナットが付いている場合は右、本体側にナットが付いている場合は左にまわします。

注意

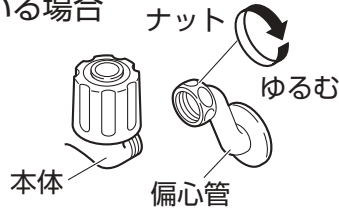
- ねじで手を切る場合があります。ご注意ください。
- 湯側の偏心管の残り湯にご注意ください。

アドバイス

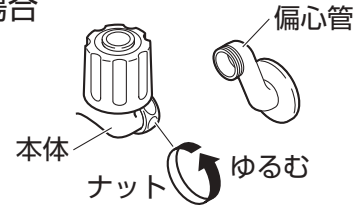
- この時、片方のナットだけまわすとうまくはずれません。交互に少しずつゆるめて取りはずしてください。
- 残り水を受けるためぞうきんを用意してください。



■ 偏心管側にナットが付いている場合



■ 本体側にナットが付いている場合



3 古い偏心管をはずします。

偏心管をタオルなどであてがい、湯側、水側ともに手で左にまわしてはずします。

手でまわしてもはずれない場合はモンキーレンチなど工具を用います。

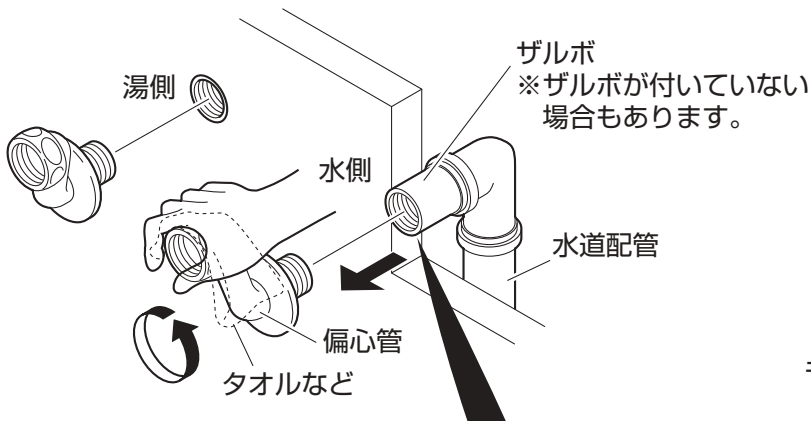
モンキーレンチなどが滑らないようにしっかりと偏心管にはさんでまわしてください。

注意

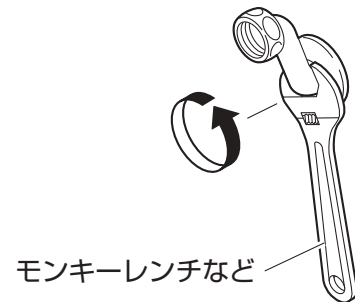
- 偏心管の付け根がぐらついていたり、まわそうとすると反発を感じる場合は配管がきちんと固定されていない可能性があります。注意しながらまわしてください。配管が割れそうな場合は無理にまわそうとせず、偏心管をはずさず取付ける事ができる取替用混合栓をお買い求めください。
- ねじで手を切る場合があります。ご注意ください。
- 湯側の配管の残り湯にご注意ください。

アドバイス

残り水を受けるためぞうきんを用意してください。



■ 手でまわしてもはずれない場合



■ 配管中のザルボがはずれた場合

配管中にはザルボ（商品には含まれていません。）が付いている場合があります。

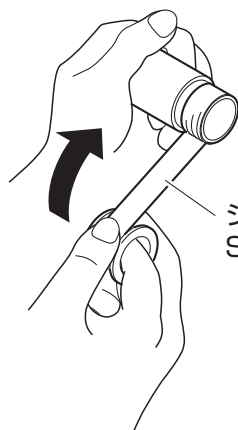
もし、ザルボがはずれた場合は次の要領で取付けてください。

(1) ザルボをプライヤーなどではさみ、偏心管からはずします。

(2) ザルボのねじ部を掃除します。



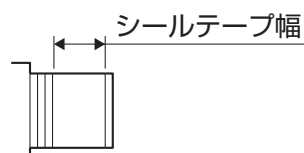
- (3) 手でしっかりとザルボを握り、シールテープをねじに向かって右向きに、5回程度少し引っぱりながら、ねじにくい込むように巻き、そのまま引きちぎります。



シールテープ
SANEI品番：PP75-1S（シールテープ）

アドバイス

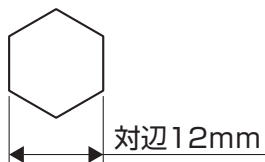
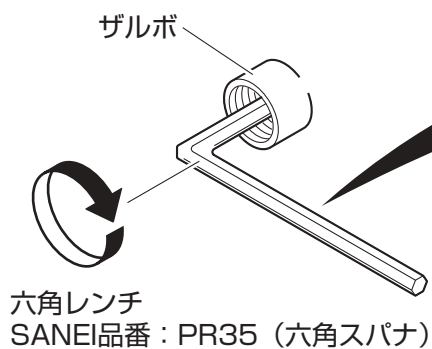
シールテープをねじ全体に巻く必要はありません。
シールテープ幅に合わせて巻付けてください。



⚠ 注意

シールテープを逆に巻くと壁の穴に取付けた場合、シールテープがゆるみ、漏水の原因となりますので、図の通りに巻いてください。

- (4) ザルボを配管の中に入れ、六角レンチで締付けます。



■ 六角レンチがない場合

ザルボを配管の中に入れ、六角レンチの代わりに古い偏心管で締付けます。
締付け後、古い偏心管をとりはずします。



⚠ 注意

ザルボの取付けは慎重に進めてください。
壁の中にあるため、もしもの漏水の確認が困難です。

B 新しい水栓の取付け

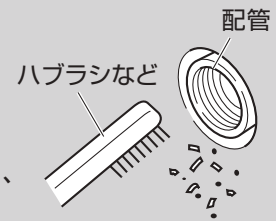
4 配管内の掃除をします。

注意

配管内のシールテープくずやゴミをきれいに取除き、
必ず通水して配管内のゴミを完全に洗い流してください。

(元栓の開閉は手順1を参照してください。)

水栓金具内にゴミなどが混入すると止水不良や水栓の故障の原因となり、
この場合には有償修理となります。



逆配管の場合

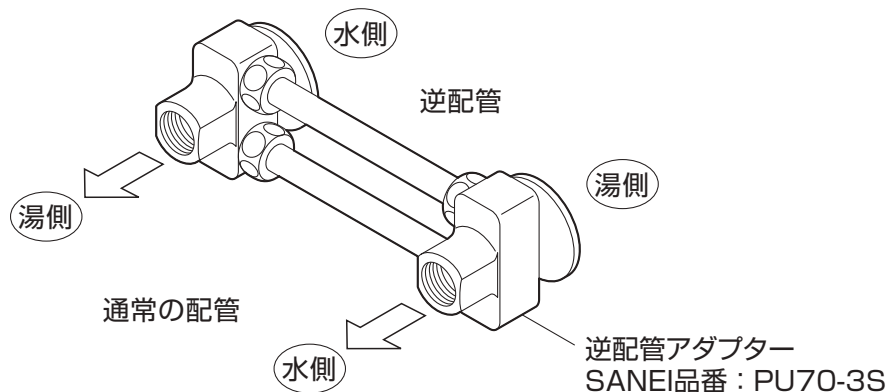
通常の配管は向かって左側が湯、右側が水ですが、逆配管は向かって左側が水、右側が湯になっています。

このような場合には正常に作動しません。

下記の方法を行って、逆配管でも使用できるようにしてください。

■ 逆配管アダプター(別売)による対応

逆配管アダプターを使用する事によって、逆配管を通常の配管にします。



※取付方法については逆配管アダプターの説明書をお読みください。

5 偏心管の取付回転を確認します。

偏心管を湯側・水側に分けて配管に取付け、何回転で止まるか回数を確認します。

アドバイス

取付回転数は後で偏心管を仮固定する際の目安にします。

MEMO

湯側

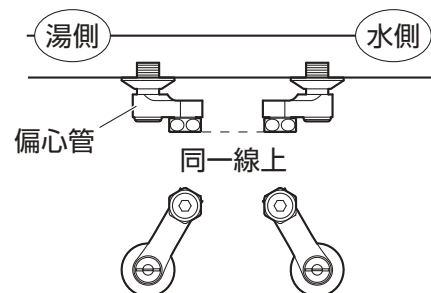


回転

水側



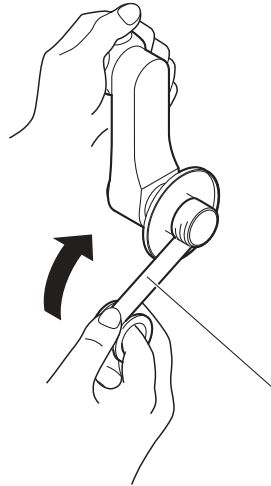
回転



※「八」の字になるように

6 偏心管にシールテープを巻きます。

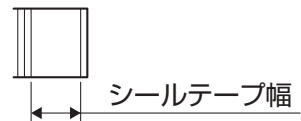
ねじに向かって右向きに、10回程度少し引っ張りながら、ねじにくい込むように巻き、そのまま引きちぎります。



シールテープ
SANEI品番：PP75-1S(シールテープ)

アドバイス

シールテープをねじ全体に巻く必要はありません。
シールテープ幅に合わせて巻付けてください。



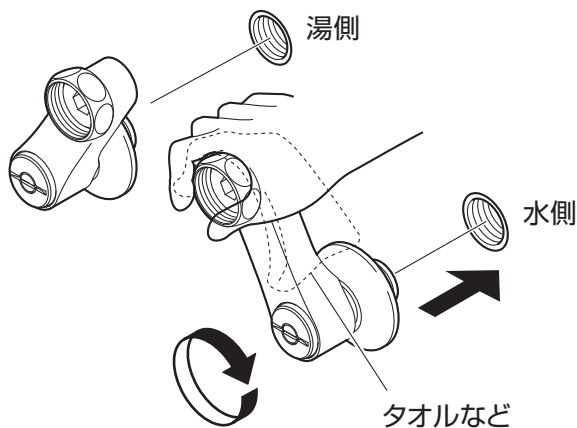
⚠ 注意

シールテープを逆に巻くと壁の穴に取付けた場合、シールテープがゆるみ、漏水の原因となりますので、
図の通りに巻いてください。

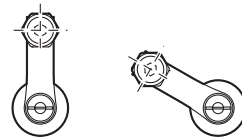
7 偏心管を仮固定します。

偏心管をタオルなどであてがい、湯側・水側ともに右にまわして入れます。

手順5で確認した偏心管の少ない方の回転数より1回転少ない位置まで、湯側・水側ともにまわして止めておきます。



手順5の少ない方の回転数より
1回転少ない位置で止めておく。



アドバイス

上記のように偏心管を少し手前で止めておくことで、ねじ込みすぎを防止します。

⚠ 注意

漏水の原因になります。

偏心管は絶対に逆方向へゆるめないでください。

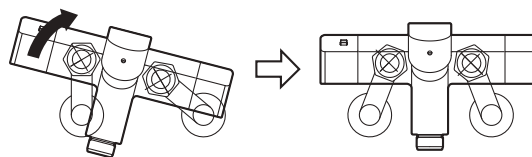
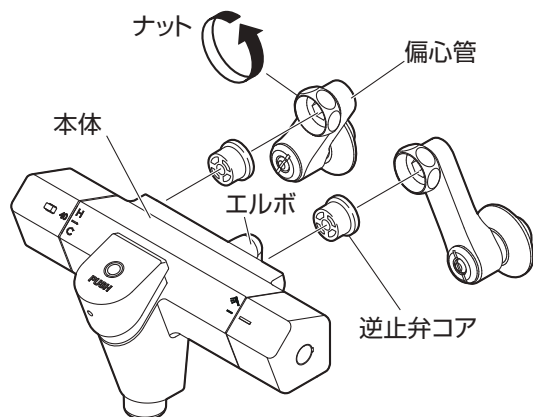
もしもゆるめてしまった場合は、手順6をもう一度はじめて行ってください。

8 水栓本体を取付けます。

(1) 水栓本体と偏心管の間に、逆止弁コアが入っている事を確認し、水栓本体がまっすぐになるように偏心管を調節しながら手でナットを締付けていきます。

⚠ 注意

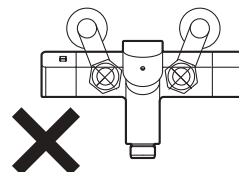
- 漏水の原因になります。
偏心管は絶対に逆方向へゆるめないでください。
もしゆるめてしまった場合は、手順6をもう一度始めから行ってください。
- 逆止弁コアが入っていることを確認してください。
逆止弁コアが入っていないと水漏れのおそれがあります。
- 水栓本体は重いので落下などに注意して取付けてください。



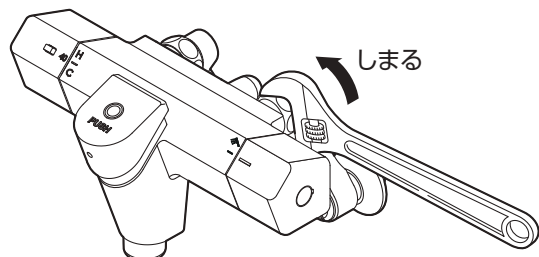
※「八」の字になるようにまっすぐ

⚠ 注意

偏心管は必ず下になるように取付けてください。



(2) モンキーレンチなどでナットをしっかりと締付け、水栓を偏心管に固定します。



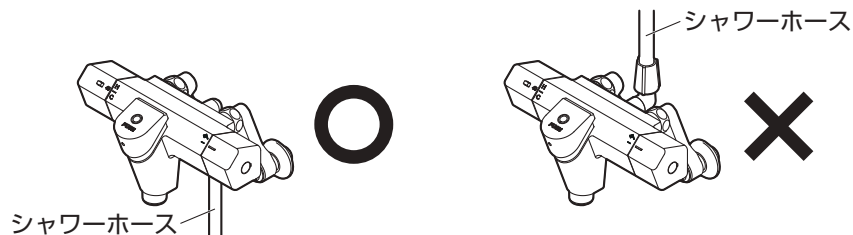
⚠ 注意

緩みがないように確実に締めてください。
ナットが確実に締付けられていないと、本体が傾いたり水が漏れることがあります。

9 シャワーホース・シャワーヘッドを取付けます。

⚠ 注意

シャワーホースは偏心管の下から取出してください。

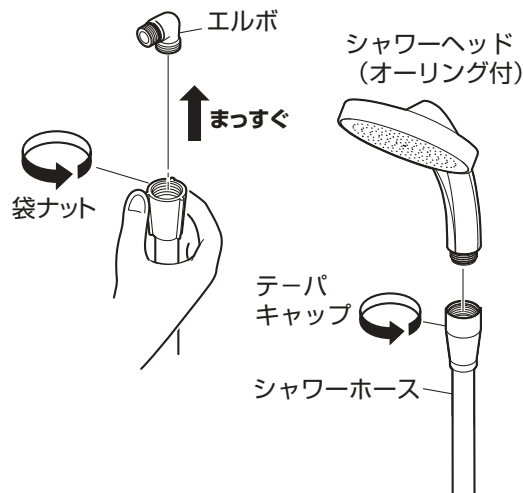


⚠ 注意

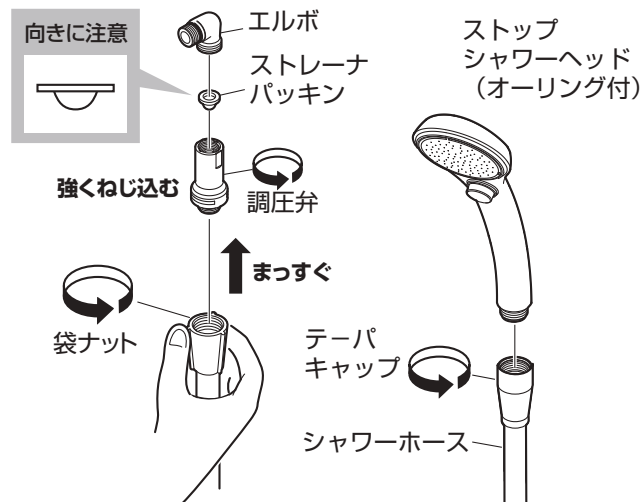
- シャワーヘッド・テーパキャップ・袋ナットは手でまっすぐにねじ込んでください。
工具を使用したり、斜めにねじ込むとネジ山が潰れ、接続できない場合があります。
- ホースのパッキンが入っている方を、本体に取付けてください。



SK1816-13の場合



SK1816T2-13の場合



注意

- 袋ナット・テーパキャップは短いほうが本体側です。

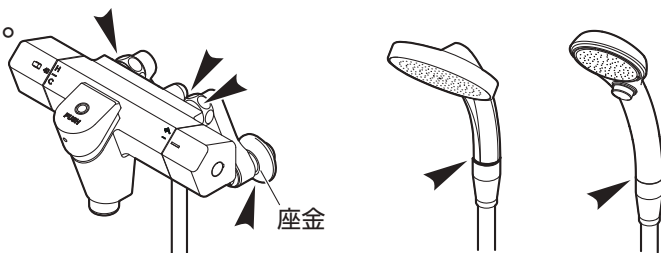


- 本体側の袋ナットにパッキンが入っていることを確認してください。
- 袋ナットは手でまっすぐにねじ込んでください。工具を使用したり、斜めにねじ込むとねじ山がつぶれ、接続できない場合があります。
- ホース破損のおそれがありますので、調圧弁を取付けてください。ただし、使用水圧が0.3MPa未満で十分な吐水量が得られない場合は、調圧弁をはずすことも可能です。
- 調圧弁は手で強くねじ込んでください。
- ストレーナパッキンが入っていることを確認してください。ストレーナパッキンが入っていないとゴミが混入し、故障の原因になります。
- ストレーナパッキンの向きに注意してください。

10 元栓を開いて水漏れをチェックします。

接続後、各部に水漏れがないか必ず

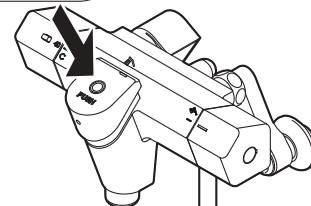
確認してください。水漏れがある場合は、もう一度はじめからやり直してください。最後に座金を壁面に締付けて完了です。



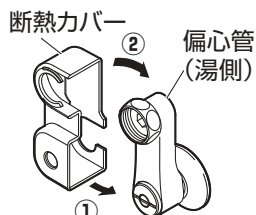
注意

- 初めて通水する時は、水栓内部に空気が残っているため、流量・吐出量が多めに出来ます。流量・吐出量が安定するまでPUSHボタンを数回押し、空気を抜いてください。
- 水栓内部の空気を抜いても湯水の出が悪かったり、止水しない場合はストレーナ・吐水口・自閉カートリッジの掃除が必要です。参照：P23～25

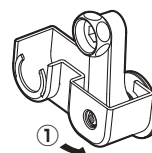
数回押しして空気を抜く



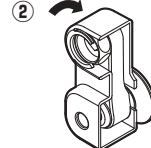
11 断熱カバーを取付けます。



①取付足部にはめ込みます。



②ナット部にカチッと音がするまではめます。



12 流量(水勢)・吐出量(吐水時間)の調節を行います。

自閉部は工場出荷前に調節済ですが、取付現場の圧力などの条件により十分な流量(水勢)・吐出量(吐水時間)が得られない場合は調節が必要です。

参照：P21～22

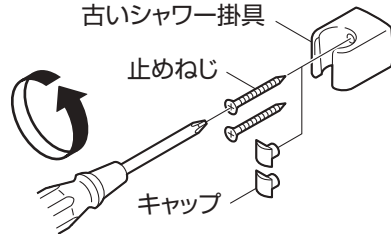
13 シャワー掛具を取付けます。

(1) 古いシャワー掛具の止めねじをはずします。



注意

止めねじがない場合や止めねじをはずしてもシャワー掛具がはずれない場合は、接着剤などで固定している可能性があります。
無理してはずそうとしないで、そのままお使いください。



(2) 穴を掃除します。



■ 新設の場合

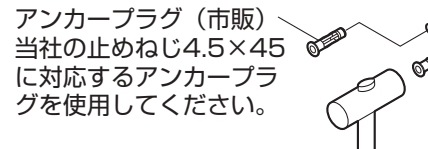
① シャワー掛具の位置を決め、ねじ取付位置に印を付けます。

② 印を付けた位置に電動ドリルなどで穴を開けます。
(コンクリートやタイル張りの場合は、超硬ドリルを使用します。)

③ 電動ドリルなどで開けた穴にアンカープラグを差し込みます。



手順③のアンカープラグ(市販)に適合するドリル径で開けてください。



(3) シャワー掛具と壁の間にパッキンが入っている事を確認し、シャワー掛具を止めねじでしっかりと固定します。
最後に穴をキャップでふさぎます。

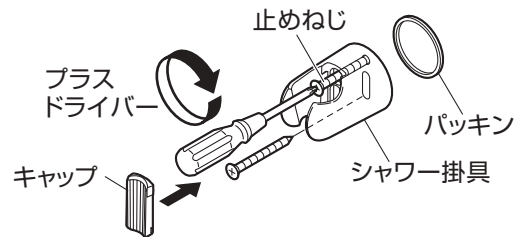


注意

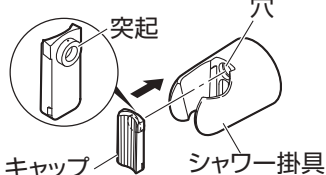
シャワー掛具の向きに注意してください。
止めねじ穴の長い方が下です。



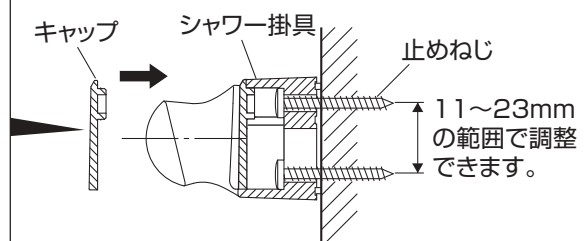
穴の長い方が下



1キャップの突起をシャワー掛具の穴に入れます。



2キャップの下側を押しします。








ご使用について

ご使用に関する安全上のご注意

●ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果（傷害・物損）に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

用語および記号の説明

- 警告** …………… 「取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じる事が想定されます。」
- 注意** …………… 「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害が発生する危険な状態が生じる事が想定されます。」
-  …………… 「注意しなさい！」（上記の「警告」「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項を守ってください。）
-  …………… 「してはいけません！」（一般的な禁止記号です。）
-  …………… 「分解してはいけません！」
-  …………… 「指示した場所に触れてはいけません！」
-  …………… 「指示通りにしなさい！」（一般的な行動指示記号です。）

警告



小さいお子様だけのご使用は、避けてください。
やけど・けがをするおそれがあります。



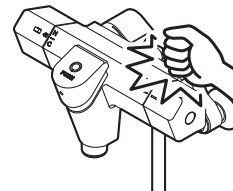
注意



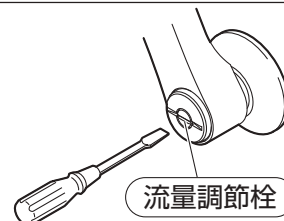
使い始めの水がにおう場合は、しばらく流してからお使いください。
しばらく使われないと、水栓内の水は消毒用の塩素が少なくなり、におうことがあります。



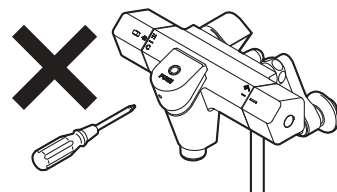
製品に強い力や衝撃を与えないでください。
故障や漏水の原因になります。



ストレーナの掃除をする際は、いきなりストレーナを緩めずに、流量調節栓を閉めてから行ってください。
湯水が噴き出して、やけどや家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。参照：P24



分解は、保守・点検の決められた項目以外はしないでください。
器具が破損し、やけど・けがをしたり、水漏れで家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。



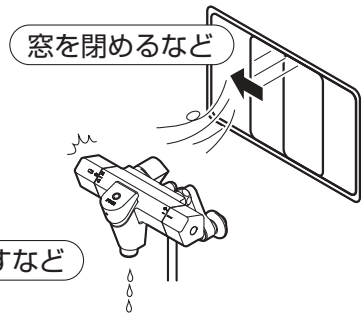
⚠️ 注意



凍結が予想される場所でご使用になる場合は、凍結予防を確実に実施してください。

凍結破損で水漏れし、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

参照：P22

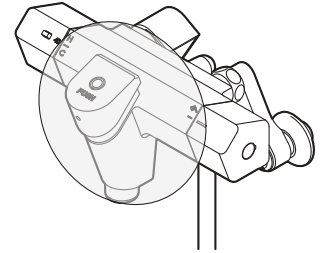


●水栓のPUSHボタン周辺に直接肌を触れないでください。

給湯側のため高温になっており、やけどをするおそれがあります。

●高温の湯をお使いのときは、吐水口周辺に直接肌を触れないでください。

吐水口は高温になっているのでやけどをするおそれがあります。

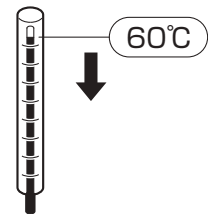


(給湯器の設定温度について)

給湯温度は最高60℃まででお使いください。

60℃以上でご使用になると器具の寿命が短くなります。

なお、誤操作などによるやけど防止のため、50～60℃給湯をおすすめします。



シャワーには高温の湯（60℃以上）を通さないでください。

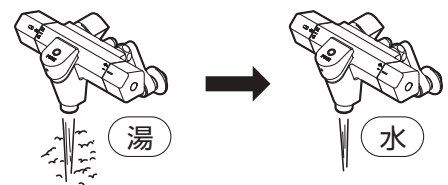
給湯温度が60℃以上の場合は、吐水温度が60℃以下になるように調節してください。

シャワーヘッドが破損して、やけどをするおそれがあります。安全のため、適温でのご使用をおすすめします。



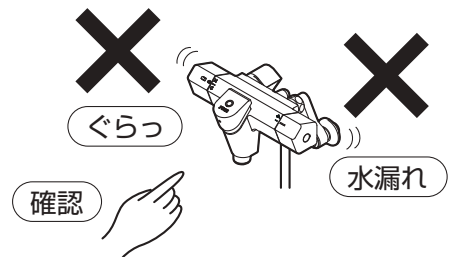
湯をお使いの後は、しばらく水を流してから止水してください。

次に使用する場合、水栓内に残っている高温の湯が出て、やけどをするおそれがあります。



定期的に、配管周りの水漏れや、ガタツキがないか確認してください。

劣化・摩耗などで部品が破損し、やけど・けがをしたり、水漏れして家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。



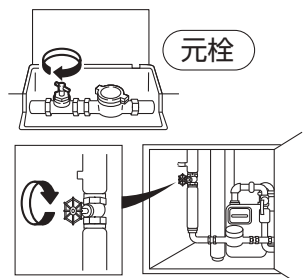
長期間使用しない時は、流量調節栓または配管中の元栓を閉めてください。

水漏れなど予想しない事故の原因になります。

流量調節栓



元栓

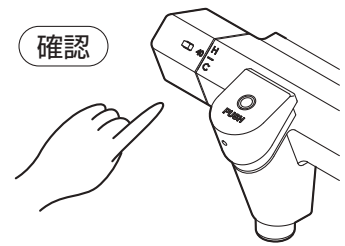


PUSHボタンを押しながらまわす。

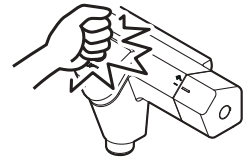
⚠️ 注意



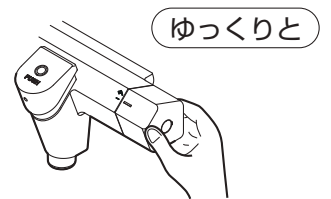
温調ハンドルの温度位置を確かめて吐水してください。
高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。



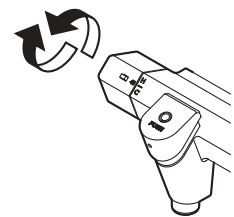
PUSHボタンは、強くたたいたり、足で踏んだりしないでください。
器具が破損しけがをしたり、故障や漏水の原因になります。



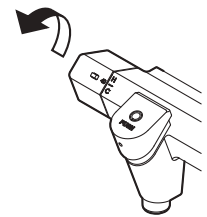
切替ハンドルは、ゆっくり回してください。
ハンドルを急に閉めると、配管に衝撃が加わり、水漏れで家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。



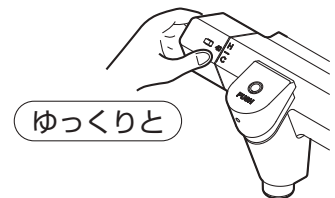
日頃から、ときどき温調ハンドルを回してください。
温度調節ハンドルを長期間回さずに使用すると機能部に水あかなどが付着し、温度調節機能が損なわれるおそれがあります。



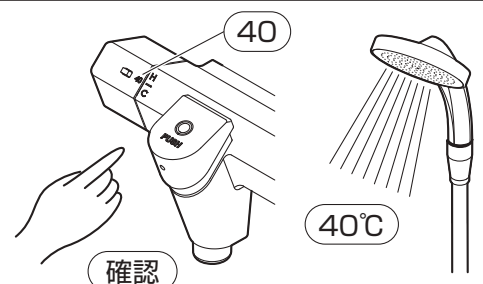
高温の湯をお使いの後は必ず温度を40℃以下に戻してください。
次に使用する際、いきなり高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。



温調ハンドルは、ゆっくり回してください。
温度調節ハンドルを急に回すと、温度が急上昇し、やけどをするおそれがあります。



凍結した場合は温調ハンドルの目盛り"40"と吐水温度が確認してください。
凍結すると本体内の部品が破損し、設定温度がずれてやけどをするおそれがあります。



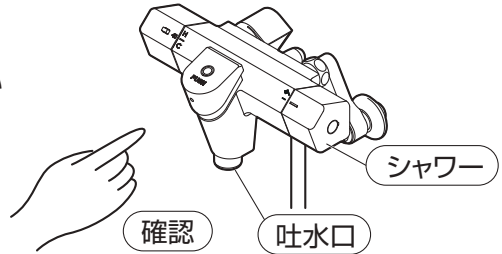
⚠️ 注意



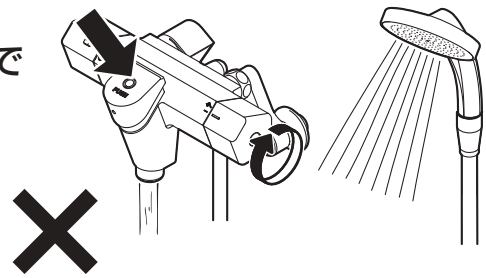
シャワーをお使いになる前に、必ず手で適温であることを確かめてください。
高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。



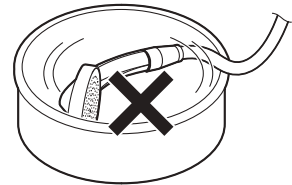
お使いになる前に、吐水口側かシャワー側かを確認してから湯をお使いください。
間違えると、やけどをするおそれがあります。



吐水口側とシャワー側を同時に吐水しないでください。
十分な流量が得られなかったり、温度が変わりやけどをするおそれがあります。

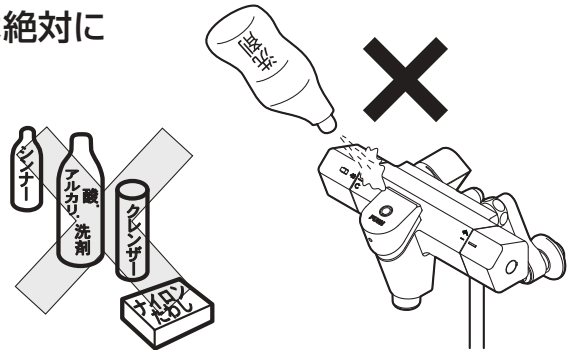


シャワーホースやシャワーヘッドを洗面器などに漬けたまま放置しないでください。
汚水が器具に逆流するおそれがあります。

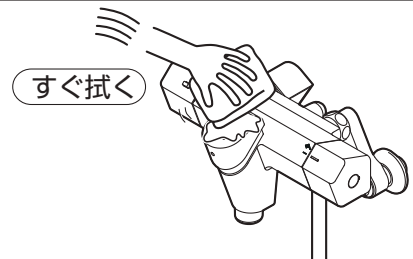


本体をお手入れする際は、次のものは絶対に使用しないでください。

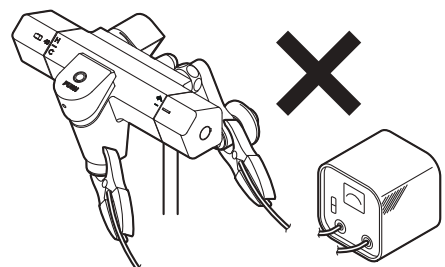
- 使用してはいけないもの
- 酸性・アルカリ性および塩素系の洗剤類
※特に酸性洗剤はメッキを侵します。
 - ベンジン・シンナー・ラッカー・アルコールなどの溶剤や油類
 - クレンザーなどの粒子の粗い洗剤
 - ナイロンたわし・メラミンフォームなど
本体の割れや変色変質の原因となります。



洗剤・薬品が本体に付着した場合は、すぐにきれいに拭き取ってください。
本体の割れや変色変質の原因となります。

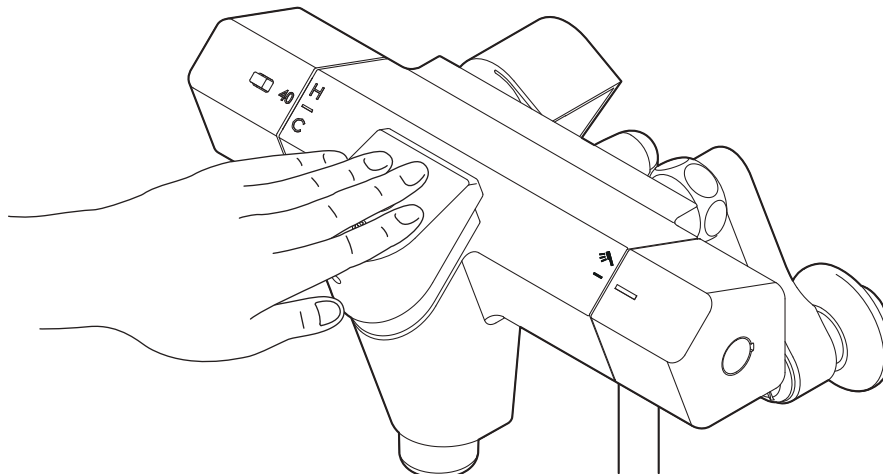


解氷機やアースを水栓に通電しないでください。
水栓が発熱で破損し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。



吐水口側の吐水・止水

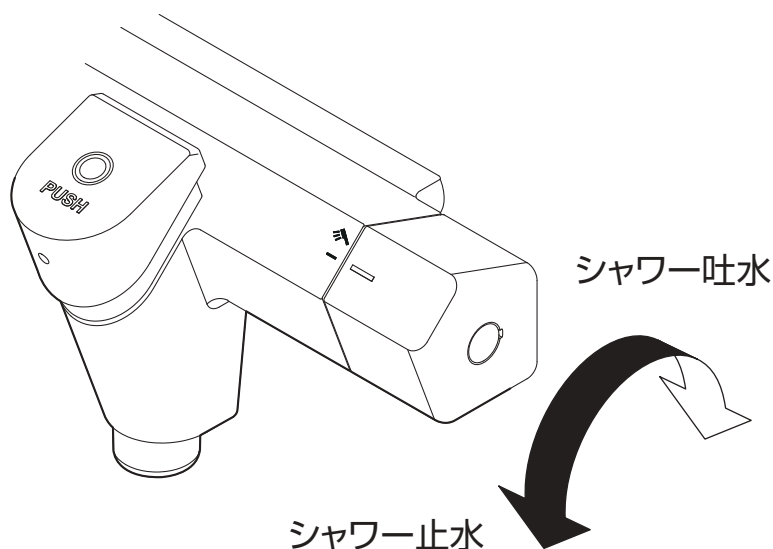
PUSHボタンを1回押すと、一定量の湯水が出て、自動的に止まります。



十分な流量(水勢)・吐出量(吐水時間)が得られない場合は調節が必要です。参照：P21～22

シャワー側の吐水・止水

切替ハンドルを奥へまわすとシャワー吐水し、手前へまわすとシャワー止水します。



十分な流量(水勢)・吐出量(吐水時間)が得られない場合は調節が必要です。参照：P21～22

⚠ 注意

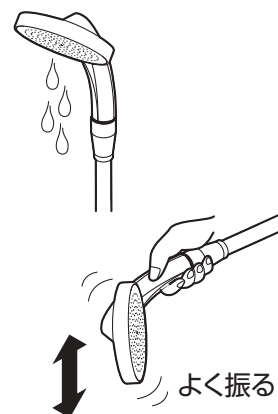
止水後、シャワーヘッドから水滴がしばらく落ちる事がありますが、シャワーヘッド内の残留水です。異常ではありません。

いつもポタポタ出ているのは切替ハンドルの閉め方がゆるいか水栓の止水切替カートリッジが故障しているかのどちらかです。

しかし、使用直後の一定時間だけの現象であれば閉め方、摩耗や故障ではありません。

シャワーヘッド内の水はシャワー散水板の表面張力により滞留しています。振動や浴室ドアの開け閉めによる気圧の変化などにより表面張力が弱くなり、ポタポタと流れ出ることがあります。

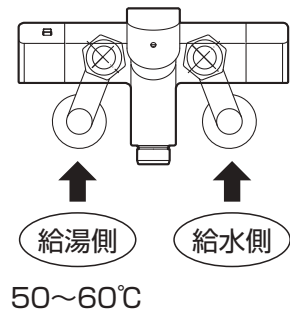
※残留水を抜きたい場合は、シャワーヘッドをよく振ってください。



ご使用について 温度調節

■ 給湯機（給湯リモコンなど）の給湯温度は、誤操作などによるやけど防止のため、50～60℃設定をおすすめします。
給湯機の設定温度が優先されるため、設定温度が低いとサーモ機能が正常に作動しないおそれがあります。

※本製品はやけど防止のため、最高吐水温度が約50℃に規制されています。安全ボタンを押してH最大まで回しても水が混ざる構造となっており、H最大まで回しても給湯機の設定温度より低温の湯が出ます。ただし、使用水圧、給湯温度条件はP4を参照ください。

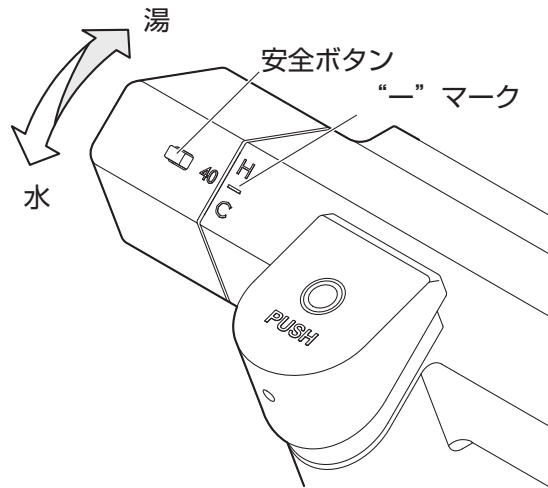


温度調節

目盛をポイントに合わせる。

数字は温度の目安としてご使用ください。

温調ハンドルを手前にまわす → 温度が下がる
温調ハンドルを奥にまわす → 温度が上がる



高温の使用

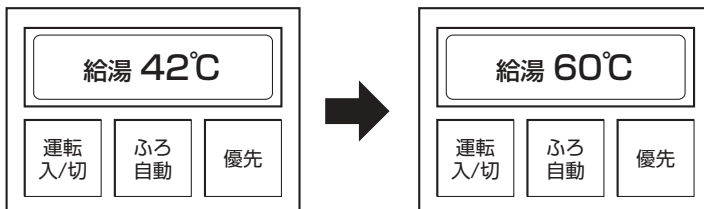
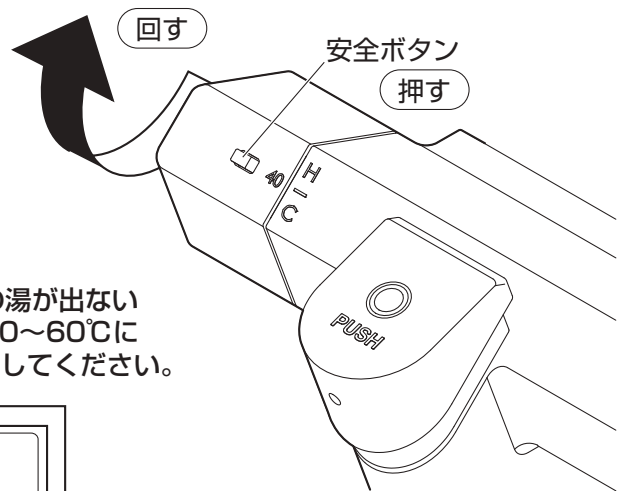
（本製品の最高吐水温度は約50℃です。ただし、使用水圧、給湯温度条件はP4を参照ください。）

安全ボタンを押してまわす。

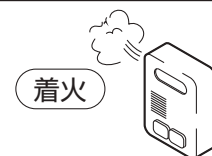
⚠ 注意

- 安全ボタンを押さずに回すと器具を破損するおそれがあります。
- 高温の湯を使用した後は必ず、温度調節ハンドルを40以下に戻してしばらく水を流してください。

※安全ボタンを押して温調ハンドルをまわしても高温の湯が出ないときは、給湯機（給湯リモコンなど）の給湯温度を50～60℃に設定した後、水栓側の温度調節ハンドルをH側へまわしてください。



（注）水温の高い夏場で吐水量を少なくして使うと瞬間式給湯機の場合、着火しないことがあります。
この場合には、水栓側のハンドルを全開に（吐水量を多く）するか、給湯機の温度設定を下げてください。



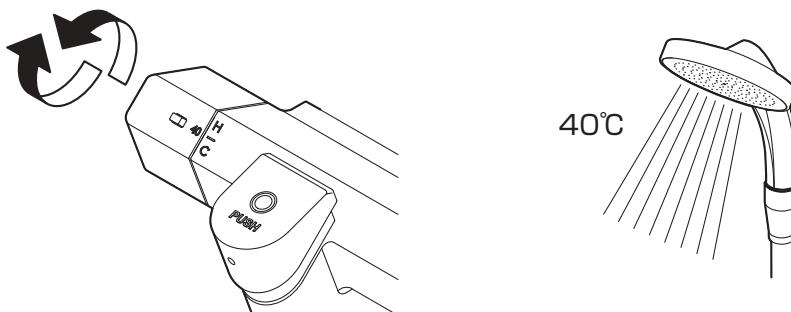
ご使用について 温調ハンドルの設定

温度調節部は工場出荷前に調整済ですが、取付現場の圧力、給湯温度などの条件により目盛と異なる温度の混合水が出る事があります。
このような場合は下記の設定を行ってください。

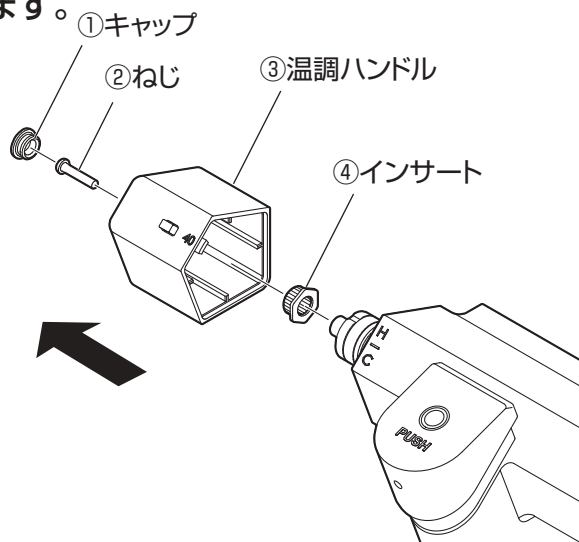
1 給湯機の給湯温度を設定します。

給湯温度の設定については P19を参照してください。

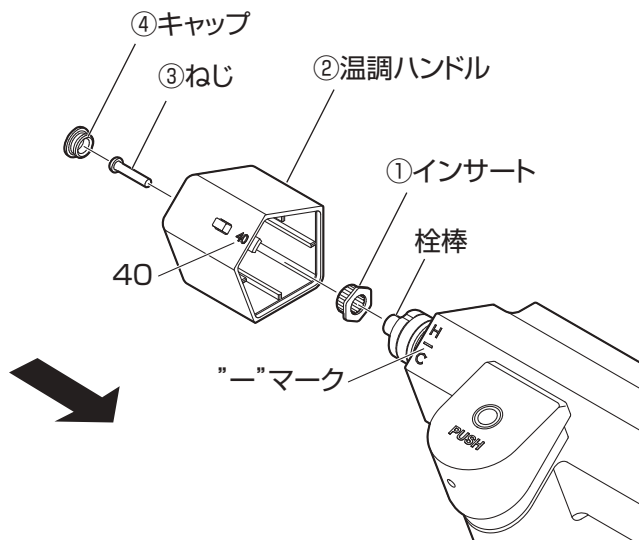
2 温調ハンドルの目盛と関係なく吐水温度が適温(およそ40℃)になるようにまわします。



3 吐水温度が適温(およそ40℃)になる位置でキャップ・ねじ・温調ハンドル・インサートをはずします。



4 本体の”-”マークと温調ハンドルの40の文字が合うように、インサート・温調ハンドル・ねじ・キャップを取付けます。



⚠ 注意

- 温調ハンドルを取付ける時、栓棒をまわさないようにしてください。
- 目盛・数字とも目安としてご使用ください。
- 温調ハンドルと水栓本体の位置が合わない場合はインサートの取付け角度を微調整してください。
- 温調ハンドル取付け後、温調ハンドルを水側へ全開にまわし、給湯機が着火しないことを確認してください。着火する場合は、吐水温度を下げて再度、温調ハンドルを取付けてください。
- 部品をなくさないように注意してください。

自閉部は工場出荷前に調節済ですが、取付現場の圧力などの条件により十分な流量(水勢)・吐出量(吐水時間)が得られない場合は調節が必要です。

流量(水勢)の調節

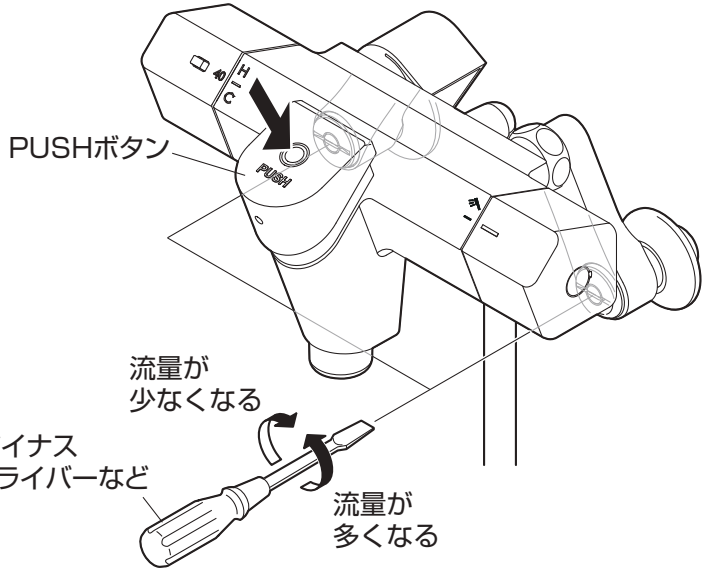
使用時に水はねしない程度、または使用目的に応じ、流量調節栓で流量(水勢)を調節してください。配管からの水を止める事もできます。

PUSHボタンを押しながら流量調節栓をまわし、好みの流量に調節します。

- 右にまわす……流量(水勢) 小
- 左にまわす……流量(水勢) 大

注意

止水したまま流量調節栓を右へまわすと、水栓内部の圧力が高くなりPUSHボタンが押せなくなります。そのような場合には、流量調節栓を左に戻せば押せるようになります。



PUSHボタンを押しながら流量調節栓をまわす。

吐出量(吐水時間)の調節

吐出量調節ネジで適当な吐出量(吐水時間)に調節してください。

- 1 PUSHボタンを押して吐出量を確認めます。
- 2 付属の六角レンチで止めねじをゆるめて、PUSHボタンをはずします。

注意

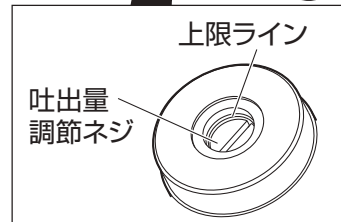
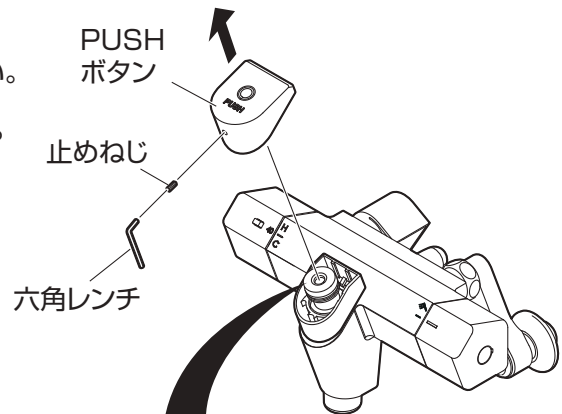
止めねじの紛失に注意してください。PUSHボタンは止めねじを1回転程度ゆるめれば取りはずす事ができます。

- 3 吐出量調節ネジをまわし、好みの吐出量に調節します。

- 右にまわす……吐出量 大(吐出時間が長くなる)
- 左にまわす……吐出量 小(吐出時間が短くなる)

注意

- 施工条件により、正確な吐水時間は設定できません。
- 吐出量調節ネジを右へまわし過ぎると水が出放しになり、左にまわし過ぎると水が出なくなります。これは調節可能範囲を超えているためです。適当な吐出量に調節してください。
- 吐出量調節ネジが上限ラインを超えないようにしてください。

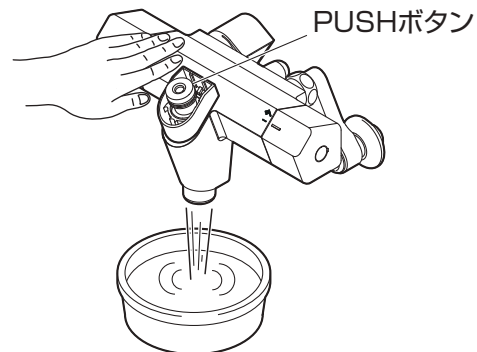


4 PUSHボタンを押して吐出量を確認します。



注意

吐出量の確認は数回押してから確認してください。

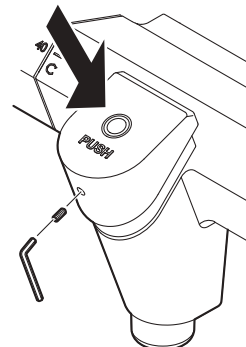


5 調節が終わったら、取りはずしと逆の手順で取付けます。



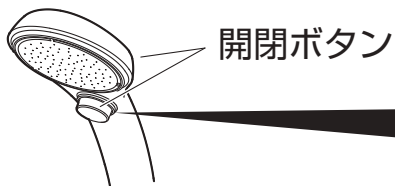
注意

- PUSHボタンのがたつかなくなるまで押し込んでください。
- 止めねじがゆるまないよう十分に締付けてください。

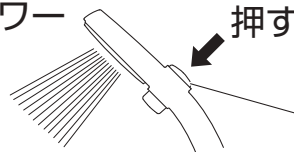


ご使用について ストップシャワーヘッドの使用方法

一度調節した温度の湯がシャワーヘッド側で一時止水できます。



■ シャワー

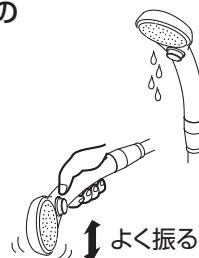


■ ストップ



注意

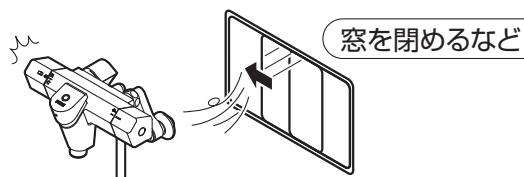
- ホース内部に圧力がかかるのを防ぐため、使用後は必ず、ストップシャワーヘッドの開閉ボタンを開側にして、水栓の切替ハンドルで止水してください。
 - 止水後、シャワーヘッドから水滴がしばらく落ちる事がありますが、シャワーヘッド内の残留水です。異常ではありません。いつもポタポタ出ているのはハンドルの閉め方がゆるいか水栓の一時止水切替ユニットが故障しているかのどちらかです。しかし、使用直後の一定時間だけの現象であれば閉め方、摩耗や故障ではありません。シャワーヘッド内の水はシャワー散水板の表面張力により滞留しています。振動や浴室ドアの開け閉めによる気圧の変化などにより表面張力が弱くなり、ポタポタと流れ出ることがあります。
- ※ 残留水を抜きたい場合は、シャワーヘッドをよく振ってください。



ご使用について 凍結予防

凍結のおそれがある場合は、次の処置によって凍結を予防できる場合があります。

- 配管部などに保温材を巻いてください。
 - 屋内の窓を閉めるなどして水栓周囲の温度が氷点下にならないようにしてください。
- ※ 凍結による破損は保証期間内でも有料修理となります。



日頃のお手入れ 汚れの拭き取り

製品についての汚れを放置しておくと、汚れが落ちにくくなる場合があります。快適にお使いいただくために、日頃のお手入れをおすすめします。

- 柔らかい布で水拭きして、よくしぼった布で汚れを拭き取ってください。
- 汚れが目立つときは、中性洗剤を柔らかい布にふくませて拭き取った後水拭きして、よくしぼった布で汚れを拭き取ってください。

⚠ 注意



次のものは使用しないでください。

変色や傷みのおそれがあります。

- 酸性・アルカリ性および塩素系の洗剤類
※特に酸性洗剤はメッキを侵します。
- ベンジン・シンナー・ラッカー・アルコールなどの溶剤や油類
- クレンザーなどの粒子の粗い洗剤
- ナイロンたわし・メラミンフォームなど



洗剤・薬品が本体に付着した場合は、すぐにきれいに拭き取ってください。
本体の割れや変色変質の原因となります。

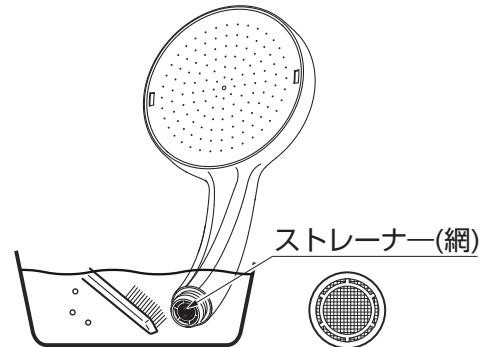


日頃のお手入れ シャワーヘッドの掃除

シャワーの汚れを放置しておくと、十分な機能を発揮できない場合があります。快適・衛生的にお使いいただくために、日頃のお手入れをおすすめします。(近所で水道工事があったり、長期間使用し湯水の出が悪くなった場合にも、汚れの点検・お手入れをおすすめします。)

SK1816-13 のシャワーヘッド

シャワーヘッドをホースから取り外し、取付ネジ部を水につけながらハブラシなどでストレーナー(網部分)を掃除します。



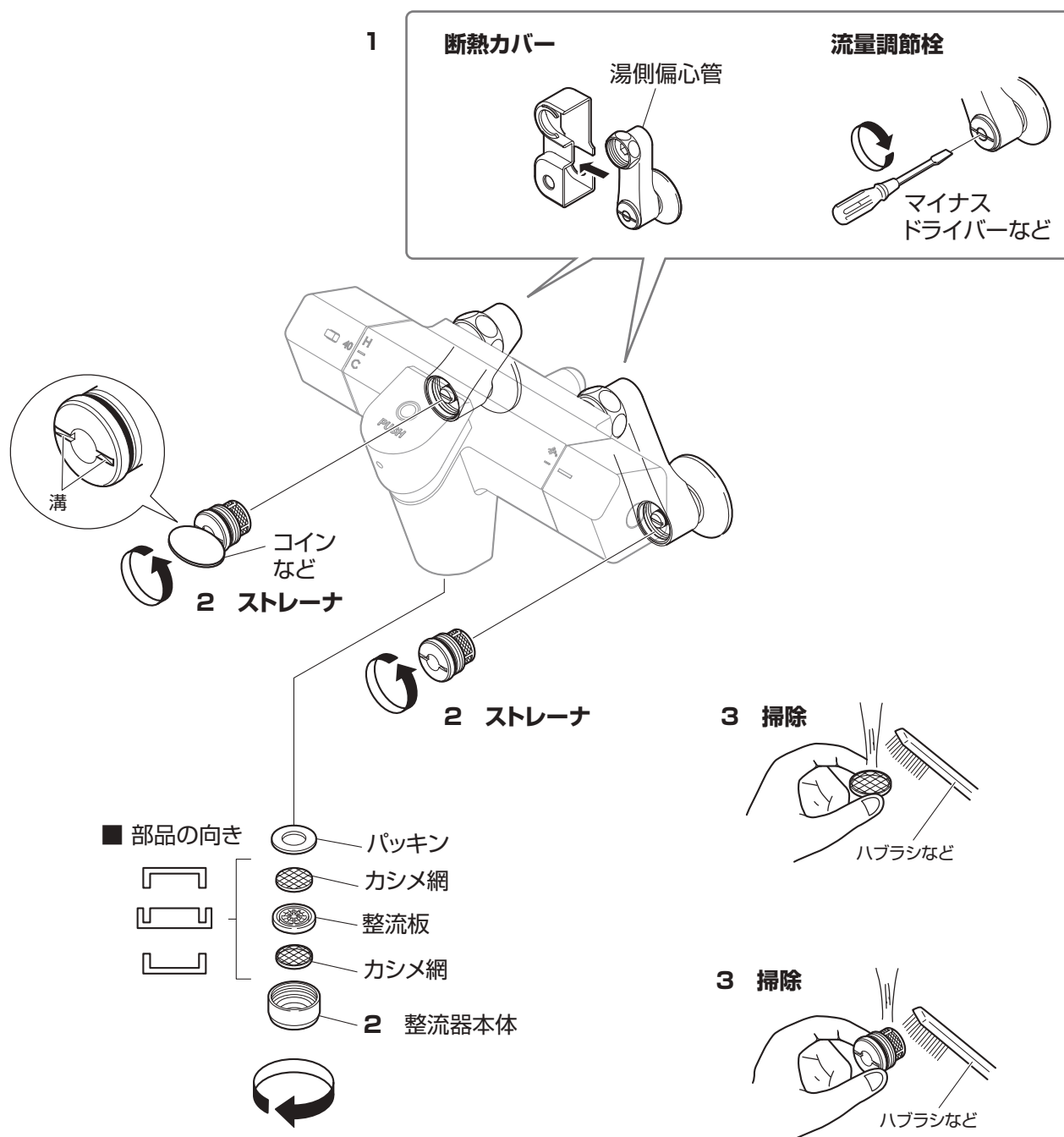
シャワー板の掃除

シャワー板の穴がつまり、水流が乱れたり出にくくなった場合は、シャワーヘッドをホースから取りはずして歯ブラシなどで掃除してください。本体内にゴミが残らないように水で洗い流してください。

日頃のお手入れ ストレーナ・吐水口の掃除

ストレーナ・吐水口の汚れを放置しておくと、十分な機能を発揮できないことがあります。
 快適・衛生的にお使いいただくために、日頃のお手入れをおすすめします。
 (近所で水道工事があったり、長期間使用し湯水の出が悪くなった場合にも、汚れの点検・お手入れをおすすめします。)

- 1 ■ストレーナを掃除する場合・・・流量調節栓を右にまわし、止水します。
 ■吐水口を掃除する場合・・・ハンドルを止水位置にします。
- 2 整流器本体をはずします。ストレーナはコインなどではずします。
- 3 ハブラシなどで網部分を掃除します。



再使用时

- ストレーナ・整流器本体が確実に閉まっているか確認してから、通水してください。
- 十分な流量(水勢)が得られない場合は調節が必要です。参照：P21
- PUSHボタンを数回押し、空気を抜いてください。

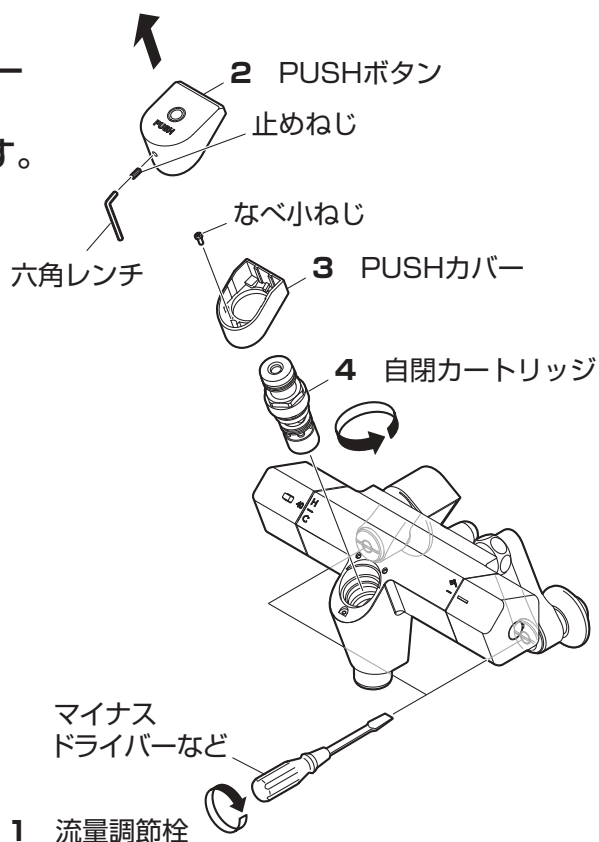
日頃のお手入れ 自閉カートリッジの掃除

自閉カートリッジ内部の小穴がつまると吐水量(吐水時間)が多くなり、止水しないなど、十分な機能が発揮されません。PUSHボタンを数回押し、空気を抜いても安定しない時にお調べください。

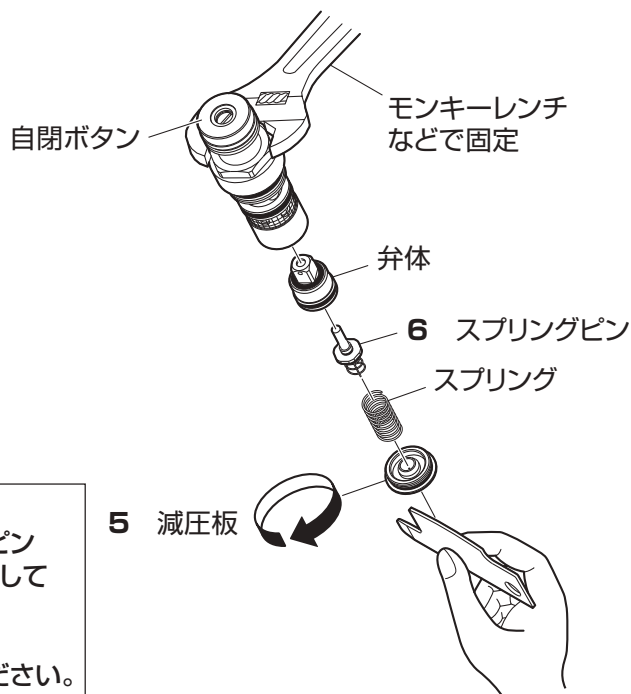
- 1 流量調節栓を右にまわし、止水します。
- 2 付属の六角レンチで止めねじをゆるめて、PUSHボタンをはずします。
- 3 3本のなべ小ねじをはずして、PUSHカバーを水栓本体からはずします。
- 4 自閉カートリッジを水栓本体からはずします。

⚠ 注意

止めねじ、なべ小ねじの紛失に注意してください。



- 5 付属の開閉工具で自閉カートリッジの減圧板をはずします。



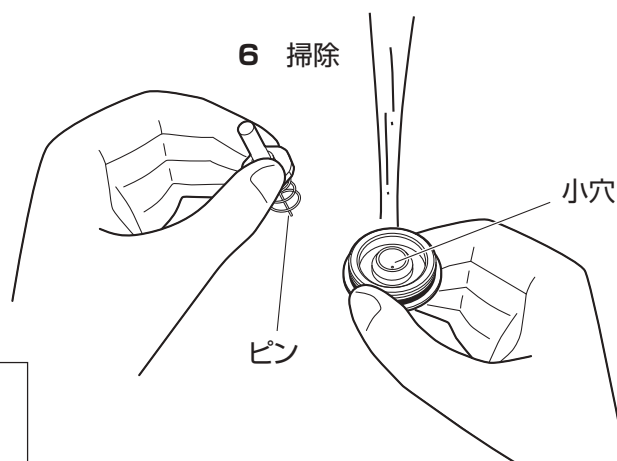
⚠ 注意

- 減圧板をはずすと内部からスプリング・スプリングピンおよび弁体が出てくるので、紛失しないように注意してください。
- ピンが折れ曲がらないよう注意してください。
- 自閉ボタンを押しながら減圧板をはずさないでください。

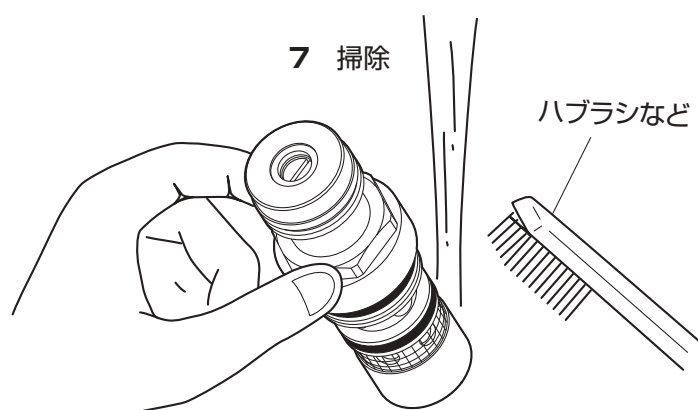
6 スプリングピンを用いて減圧板の小穴を掃除します。

⚠ 注意

- ピンが折れ曲がらないよう注意してください。
- ピンを伸ばさないでください。



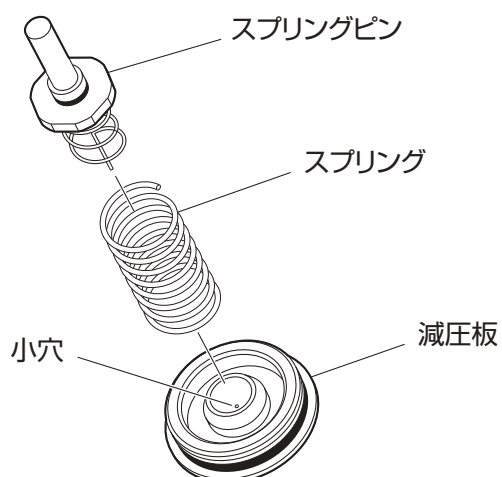
7 ハブラシなどで自閉カートリッジの網部分を掃除します。



8 部品を元通り組付けます。

⚠ 注意

- スプリングピンを減圧板の小穴に確実に通してください。



再使用时

- 減圧板・自閉カートリッジが確実に閉まっているか確認してから、通水してください。
- 十分な吐出量（吐水時間）が得られない場合は調節が必要です。参照：P21～22
- PUSHボタンを数回押し、空気を抜いてください。

定期的な点検

可動部分の点検（月1回以上）

可動部分が固くて動きが悪い場合は、水あか固着や潤滑剤切れです。

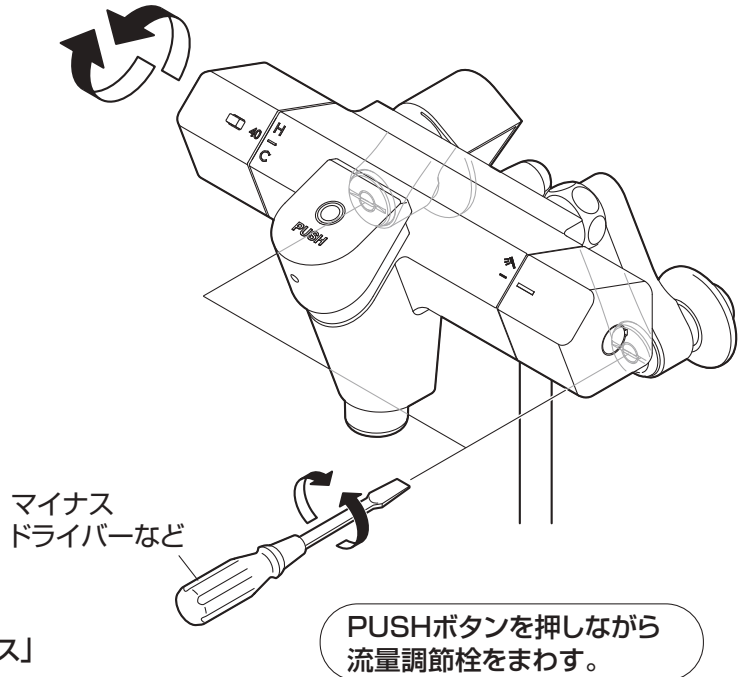
放置すると故障の原因になりますので、「保証とアフターサービス」（P30）を参照し、修理をご依頼ください。
温調ハンドル・吐水口・流量調節栓の点検については下記を参照ください。

日頃から、ときどき温調ハンドル・流量調節栓を回してください。（月1回を目安）

流量調節栓を回す際は設定位置を確認し、回した後に元の位置に戻してください。
また、流量調節栓を回す際はPUSHボタンを押しながら回してください。
参照：P21

温調ハンドルを長期間回さずに使用すると機能部に水あかなどが付着し、温度調節機能が損なわれるおそれがあります。
吐水口・流量調節栓を長期間回さずに使用すると水あかなどが付着し、無理に回そうとすると、水漏れ・異音の発生の原因になります。

温調ハンドル・吐水口・流量調節栓が回らなくなった場合は、「保証とアフターサービス」（P30）を参照し、修理をご依頼ください。



定期的な点検

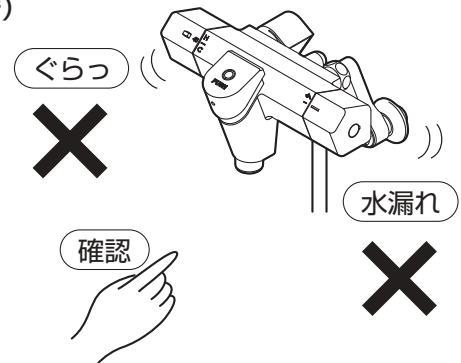
配管周りの水漏れ・器具のガタツキ（年2回以上）

定期的に、配管周りの水漏れがないか確認してください。（年2回を目安）
定期的に、器具のガタツキがないか確認してください。（年2回を目安）

劣化・摩耗などで部品が破損し、やけど・けがをしたり、水漏れして家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

漏水を確認した場合は、流量調節栓または配管中の元栓を閉めてください。

修理の依頼をされる場合は「保証とアフターサービス」（P30）を参照してください。



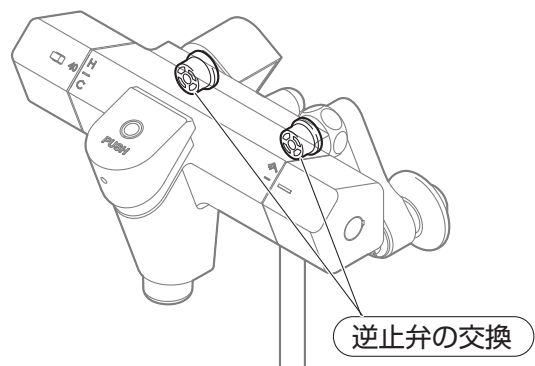
定期的な部品交換

逆止弁の交換時期

逆止弁の交換時期の目安：3～5年

万が一、逆止弁が正常に機能しない場合、状況によっては水栓から一度吐水した水が逆流するおそれがあります。

※交換時期は、使用環境などにより異なります。
※逆止弁の交換を依頼される場合は「保証とアフターサービス」（P30）を参照してください。



こんなときは 故障？ その前に

修理をご依頼される前に、次の表に従って点検してください。

現象	点検項目	処置	
流量(水勢)が多い	流量(水勢)の調節は適当ですか。	流量調節栓で流量(水勢)の調節をする。	参照：P21
流量(水勢)が少ない	流量(水勢)の調節は適当ですか。	流量調節栓で流量(水勢)の調節をする。	参照：P21
	ゴミづまりはありませんか。	ストレーナ・吐水口の掃除をする。	参照：P24
1回の吐出量が多い	1回の吐出量の調節は適当ですか。	1回の吐出量の調節をする。	参照：P21～22
	自閉カートリッジの小穴にゴミづまりはありませんか。	自閉カートリッジの掃除をする。	参照：P25～26
1回の吐出量が少ない	1回の吐出量の調節は適当ですか。	1回の吐出量の調節をする。	参照：P21～22
	自閉カートリッジのスプリングピンが抜けていませんか。	自閉カートリッジの掃除をする。	参照：P25～26
湯水が止まらない	自閉カートリッジの小穴にゴミづまりはありませんか。	自閉カートリッジの掃除をする。	参照：P25～26
	自閉カートリッジのスプリングピンが曲がっていませんか。	スプリングピンの曲がり直す。	参照：P25～26
湯水がでない	流量調節栓が閉まっていますか。	流量調節栓で流量(水勢)の調節をする。	参照：P21
	吐出量調節ねじが上限ラインを超えていませんか。	吐出量調節ネジを時計回りに回して1回の吐出量の調節をする。	参照：P21～22
高温しかでない	水側の流量調節栓は開いていますか。	流量調節栓で流量を調節する。	参照：P21
低温しかでない	給湯機から湯がきていますか。	給湯機の設定温度・作動を確認する。	参照：P19
	湯側の流量調節栓は開いていますか。	流量調節栓で流量を調節する。	参照：P21
温度調節がうまくできない	湯側・水側の流量調節栓は開いていますか。	流量調節栓で流量を調節する。	参照：P21
	給湯機から湯がきていますか。	給湯機の設定温度・作動を確認する。	参照：P19
	ゴミづまりはありませんか。	ストレーナ・吐水口の掃除をする。	参照：P24
	温調ハンドルの設定は合っていますか。	温調ハンドルの設定を確認する。	参照：P20

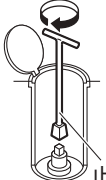
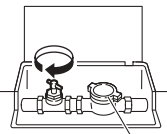
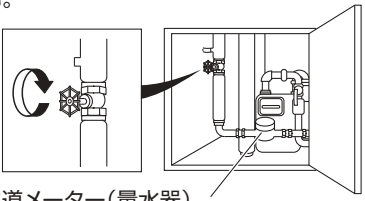
以上の点検を実施されても、不具合がなくなる場合はお手数ですがお買上げの販売店(工事店)に修理をご依頼ください。

●修理される方は次の表に従って点検してください。

現象	点検項目	
各接合部及びハンドル部から水が漏れる	老朽化や使用環境により部品の劣化やゴミかみのおそれがあります。各接合部からの水漏れの場合は、水漏れ箇所の部品を交換してください。ハンドル、ボタンからの水漏れの場合は、止水切替カートリッジ、サーモカートリッジ、自閉カートリッジを交換してください。	参照：P29
止水しても吐水口から水が漏れる	老朽化や使用環境により部品の劣化やゴミかみのおそれがあります。自閉カートリッジを交換してください。	参照：P29
シャワーホースから水が漏れる	老朽化や使用環境により部品の劣化のおそれがあります。シャワーホースを交換してください。	参照：P29

漏水した場合の処置

漏水した場合は、流量調節栓または配管中の元栓を閉めてください。

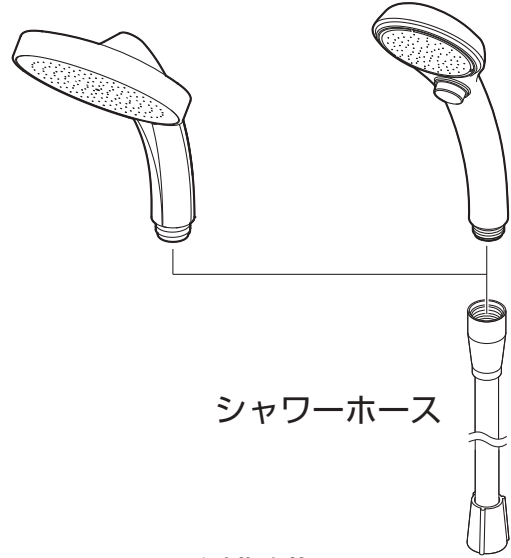
流量調節栓の閉め方	元栓の閉め方
<p>「流量(水勢)・吐水量(吐水時間)の調節」を参照してください。 参照：P21</p>	<p>元栓ボックス(メーターボックス)のふたを開け、元栓を右にまわして閉めます。 ※元栓を閉める前に給湯機や洗濯機などの使用は止めてください。 ※閉栓後は近くの水栓などで給水が止まっていることを確認してください。 ※一部の地域では左まわしの場合があります。 ※元栓がどこにあるかわからない場合は、水道局にお問い合わせください。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>■ 戸建て住宅などの元栓ボックス： 主に玄関やガレージ付近の地面にあります。 古い戸建て住宅の場合は道路に円形のキー式ボックスがあつたりします。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>●キー式</p>  <p>止水栓キー SANEI品番： PR30A(止水栓キー)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>●ハンドル式</p>  <p>水道メーター (量水器)</p> </div> </div> </div> <div style="width: 45%;"> <p>■ マンションなどの中高層住宅の元栓ボックス： 主に玄関を出た階段の踊り場に鉄の扉があり、電気やガスのメーターと共に水道メーターと元栓があります。お隣と共通のボックス内で元栓の場所がわからない場合は、水道料金の検針票などでご自分の水道メーター番号を確認してください。</p> <div style="text-align: center;">  <p>水道メーター(量水器)</p> </div> </div> </div>

こんなときは 本製品の構造

本製品の構造を表したイラストです。構造をご理解いただくのにご使用ください。

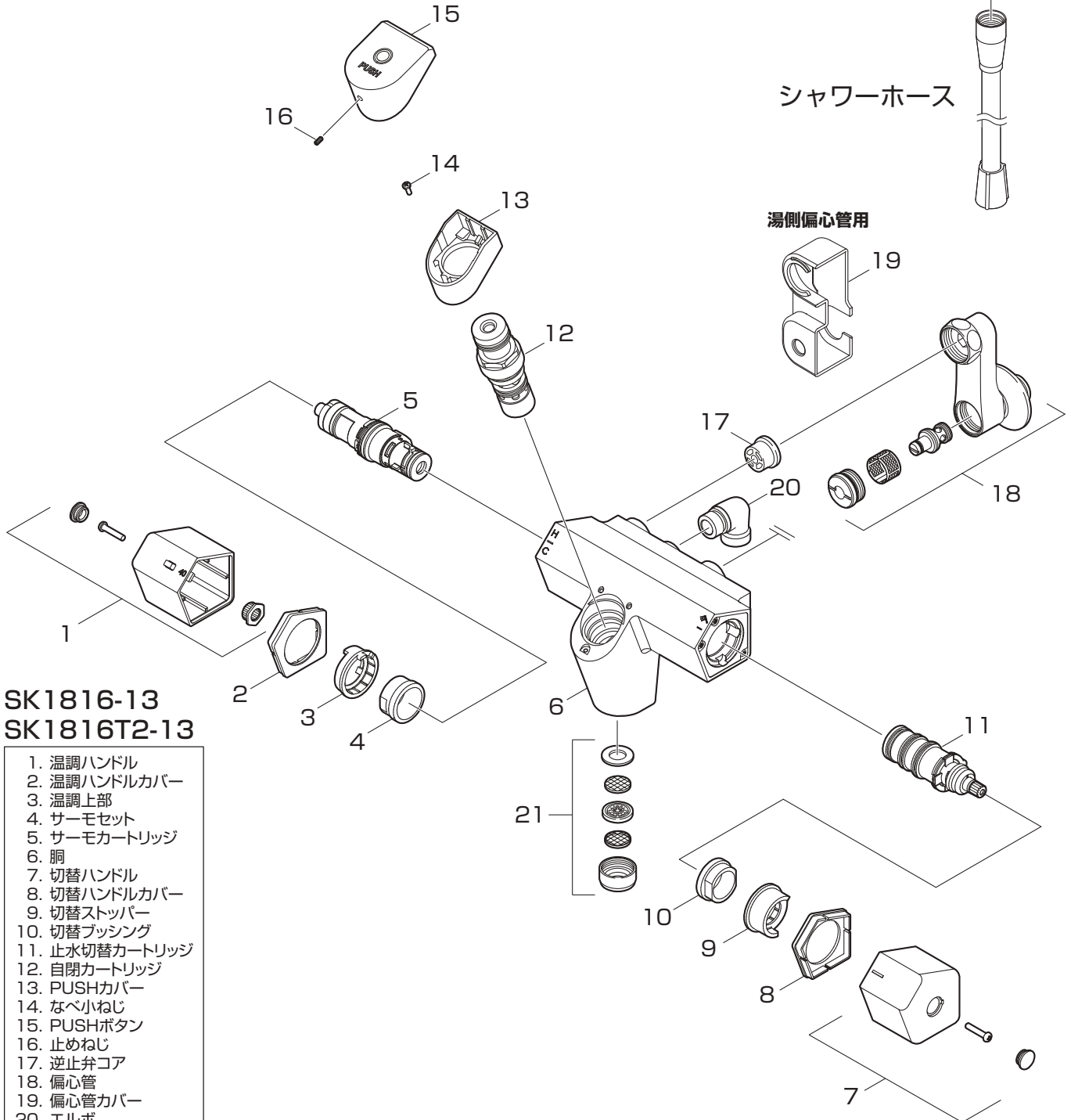
SK1816-13
シャワーヘッド

SK1816T2-13
ストップシャワーヘッド



シャワーホース

湯側偏心管用



SK1816-13
SK1816T2-13

1. 温調ハンドル
2. 温調ハンドルカバー
3. 温調上部
4. サーモセット
5. サーモカートリッジ
6. 胴
7. 切替ハンドル
8. 切替ハンドルカバー
9. 切替ストッパー
10. 切替フッシング
11. 止水切替カートリッジ
12. 自閉カートリッジ
13. PUSHカバー
14. なべ小ねじ
15. PUSHボタン
16. 止めねじ
17. 逆止弁コア
18. 偏心管
19. 偏心管カバー
20. エルボ
21. 整流器本体

(注意)

上記リストに記載されていないねじは、はずさないようにしてください。

保証とアフターサービス

〔保証について〕

- この製品は保証書の内容に従って保証されています。
お買上げ(お取付け)年月日、販売店(工事店)名が記入してあることを確認してください。
- 保証期間中は保証書の規定に従って、修理をさせていただきます。
保証期間内でも有料になることがありますので保証書の内容をご確認ください。
保証期間は保証書を確認してください。
- 保証期間を過ぎていても修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

〔水栓の定期的な点検・部品交換について〕

水栓の性能を維持するために定期的な点検・部品交換が必要です。摩耗劣化部品は、5年を交換の目安としておりますが、逆止弁については、より安全を考慮、早め(3~5年)の点検・交換をおすすめします。(交換時期は、使用環境などにより異なります。)

定期点検・部品交換

使用年数

1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12

お客様による日常のお手入れ・点検

摩耗劣化部品の交換

買替え
ご検討

日頃のお手入れについてはP23~26、定期的な点検についてはP27をご確認ください。

摩耗劣化部品とは、日頃使用する度に摺動する、または摩耗及び劣化しやすい部品のことです。

摩耗劣化部品の例

自閉カートリッジ・サーモカートリッジ(温調バルブ)・逆止弁(逆流防止弁)・シャワーホース・シャワーヘッド・ハンドル・網(ストレーナ)・パッキン・オーリングなど

部品が摩耗劣化すると操作性低下、機能障害、劣化物流出や水漏れなどの原因になりますので、交換が必要です。
部品の詳細についてはP29を参照してください。

〔補修用性能部品の供給期間〕

この製品の補修用性能部品(機能維持のために必要な部品であり、使用期間中に取替える可能性が高いもの)の供給期間は製造中止後10年です。

〔修理の依頼と部品交換の依頼について〕

- 修理依頼と部品交換依頼先：お求めの販売店(工事店)又は当社
- 連絡していただきたい内容：
 - 住所、氏名、電話番号
 - 品番、品名
 - お買上げ(お取付け)年月日
 - 故障内容、異常の状況(水漏れ箇所の説明など)、
部品交換の依頼
 - 訪問希望日

●当社の修理および部品交換料金は「技術料」+「部品代」+「出張料」で構成されています。

「技術料」……診断・故障箇所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用。

「部品代」……修理および部品交換に使用した部品代。(無料修理で交換した古い部品・製品は当社の所有になります。)

「出張料」……製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用。

品番を確認するには水栓の右側裏面に貼付のシールをご確認ください。



〔部品のご購入や修理の依頼、ご相談は〕

- まずは、お求めの販売店(工事店)へご相談ください。
ご不明な場合は当社カスタマーセンターへお問合せください。

SANEI 株式会社

〒537-0023 大阪市東成区玉津1丁目12番29号
カスタマーセンター ☎ 0120-06-9721
受付時間 9:00~17:30(土日祝除く)
ホームページ <http://www.san-ei-web.co.jp>

水栓金具保証書

本書は、本書記載内容で無料修理させていただく事をお約束するものです。

保証期間中に故障が発生した場合は、お買上げの販売店(工事店)にご依頼いただき、出張修理に際して本書をご提示ください。

お買上げ(お取付け)年月日、お客様名、販売店(工事店)名など記入もれがありますと無効となります。

必ずご確認ください、記入のない場合はお買上げ(お取付け)の販売店(工事店)に申し出ていただくか、レシート又は領収書を貼付してください。

本書は再発行いたしません。大切に保管してください。

品番	品番は製品本体に貼っているシールをご確認ください。		
保証期間	対象部品	期間(お買上げ日/お取付け日から)	店名 住所
	本体		
お買上げ日 (お取付け日)			
お客様	お名前	見 本	
	ご住所		
	電話 ()		電話 ()

＜無料修理規定＞ ご依頼の前に再度、取扱説明書をお読みいただきご確認ください。

- 「取扱説明書」、「ラベル」などの注意書に従った正常な使用、維持管理状態で、保証期間中に故障した場合、無料修理いたします。
- ご転居、ご贈答品などで本保証書に記入の販売店(工事店)に修理を依頼できない場合は当社にご相談ください。
- 保証期間内でも次の場合には有料修理になります。
 - 使用、維持管理上の誤り及び不当な修理、改造による故障及び損傷
 - 温泉水、中水、飲用不可な井戸水による故障及び損傷
 - お買上げ(お取付け)後の取付場所の移動及びそれに伴う落下などによる故障及び損傷
 - 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害など、その他の事故及び損傷の原因が製品以外にある場合
 - 電気製品における異常電圧、指定外の使用電源(電圧・周波数)及び外部ノイズなどに起因する不具合
 - 消耗部品の劣化に伴う故障及び損傷
 - 施工説明書などに基づかない施工、専門業者以外による移動・分解・改造などに起因する不具合
 - 建築躯体の変形(強度不足・ゆがみ)など製品以外の不具合に起因する製品の不具合及び表面仕上げ、色あせなどの経年変化又は使用に伴う摩耗などにより生じる外観上の不具合
 - 海岸付近、温泉地などの地域における腐食性の空気環境に起因する不具合
 - ねずみ、昆虫などの動物の行為に起因する不具合
 - 砂やごみ、給水・給湯配管の錆など異物流入及び水あかの固着に起因する不具合
 - 寒冷地仕様の製品で水抜きをされなかった場合や、寒冷地仕様でない製品の凍結による故障及び損傷
 - 本書の提示がない場合
 - 本書にお買上げ(お取付け)年月日、お客様名、販売店(工事店)名の記載がない場合、あるいは字句の書き換えられた場合
- 本書は日本国内においてのみ有効です。

★ この保証書は本書に明示した期間・条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。

従って、この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などにつきましてはお買上げの販売店(工事店)、または当社にお問合せください。

★ 補修用性能部品の保有期間についてご不明の場合は当社カスタマーセンターへお問合せください。

修理メモ

S A N E I 株式会社

〒537-0023 大阪市東成区玉津1丁目12番29号

カスタマーセンター ☎ 0120-06-9721

受付時間 9:00~17:30(土日祝除く)

ホームページ <http://www.san-ei-web.co.jp>